



授業研究編Ⅱ ● 外国語



第5学年 外国語 年間指導計画例(案)

時数	単元名	単元目標	主な活動例
1 8単位 時間	How do you spell it? アルファベット・自己しょうかい	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の大文字や、好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現が分かる。 自分のことや身近なことについて、短い会話や説明を聞いて概要を捉えたり、好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする。 他者に配慮しながら自身の名前や好きなもの、欲しいものなどを含めて簡単な自己紹介をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、必要な情報を得る。 好きなもの、欲しいものなどを含めて自己紹介をする。 活字体の文字で自分の名前を書いたり、そのつづりを言ったりする。
2 7単位 時間	When is your birthday? 行事・誕生日	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の大文字の書き方や、季節や誕生日の言い方や誕生日の尋ね方や答え方が分かる。 祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を聞き取るとともに、好みや欲しいもの、誕生日を尋ねたり答えたりして、伝え合う。慣れ親しんだ表現などを推測しながら読んだり相手に伝える目的を持って書き写したりする。 他者に配慮しながら好みや欲しいもの、誕生日を尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 誕生日カードを作成し贈るために、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりする。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。
3 7単位 時間	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の小文字や教科、曜日の言い方が分かる。 世界の同世代の子供たちの学校生活に関するまとまりのある話を聞いて、自分たちとの相違点や共通点を聞き取るとともに、教科について尋ねたり答えたりして伝え合う。時間割について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、書き写す。 他者に配慮しながら教科について尋ねたり答えたりして、伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科や曜日について尋ねたり答えたりするとともに、ある職業に就くためにふさわしいと思われる時間割を提案し、それについて尋ねたり答えたりする。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。また、時間割に関する簡単な語句を書き写す。
4 8単位 時間	What time do you get up? 一日の生活	<ul style="list-style-type: none"> 小文字の書き方や、一日の生活について尋ねたり答えたりする表現が分かる。 一日の生活について、まとまりのある話を聞いてその概要が分かったり、順序立てて伝え合ったりする。一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、書き写す。 他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の一日の生活に関する基本的な表現を聞いて、具体的な情報を聞き取る。 自分の一日の生活について伝え合う。 活字体の文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 一日の生活に関する簡単な語句を書き写す。
5 8単位 時間	She can run fast. He can jump high. できること	<ul style="list-style-type: none"> 文字には読み方のほかに音があることに気付き、文字の音が分かるとともに、できることやできないことを尋ねたり答えたりする表現が分かる。 まとまった話を聞いて、具体的な情報を聞き取るとともに、第三者についてできること、できないことを含めて紹介する。できることなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり、相手に伝える目的を持って例を参考に書き写す。 他者に配慮しながら自分や第三者ができることできないことなどを紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者ができること、できないことを尋ねたり答えたりする。 校内の先生についてできること、できないことを含めて紹介する。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 スポーツをすることなどについて、簡単な語句を書き写す。
6 8単位 時間	I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の文字とその音の分かるとともに、国名やどこに行きたいかを表す表現が分かる。 旅行プランの説明を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを伝え合ったりする。行きたい国や地域について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、他者に伝える目的を持って書き写す。 他者に配慮しながら行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを伝え合ったりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外旅行を紹介して勧めたり、行きたい旅行を理由を含めて選んだりする。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 ポスターやパンフレットなどにある視覚情報を伴う語句を読み、自分が必要とする情報を得る。
7 8単位 時間	Where is the treasure? 位置と場所	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の文字とその音の分かるとともに、ある物の場所や物の位置関係を表す表現が分かる。 ある物の場所や物の位置関係についての説明を聞いて概要を捉えたり、道案内をししたりする。場所や物の位置関係について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを推測しながら読んだり、他者に伝える目的を持って書き写す。 他者に配慮しながらある物やそれが場所について説明しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ある物の場所や物の位置関係について説明を聞き、道案内をしたり宝探しをししたりする。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 地図やポスターなどにある視覚情報を伴う語句を読み、自分が必要とする情報を得る。
8 8単位 時間	What would you like? 料理・値段	<ul style="list-style-type: none"> 英語にも場面に応じた丁寧な言い方があることに気付くとともに、家族の呼称や、要求する丁寧な表現や値段を尋ねたり答えたりする表現が分かる。 丁寧な表現を使って注文をしたり、値段を尋ねたり答えたりする。メニューについて、相手の話を聞いて質問したり、感想を伝え合うとともに、料理について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり、他者に伝える目的を持って書き写す。 他者に配慮しながら丁寧な表現を使って注文をしたり受けたり、メニューについて相手の話を聞いたり、感想を伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言い方で料理の注文をしたり、値段を尋ねたり答えたりする。 誰のためにどんなメニューを考えたのかについて理由を含めて短い話をしたり、相手の説明を聞いて必要な情報を聞き取ったりする。 感想を伝えたり質問したりする。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 メニューなどにある視覚情報を伴う語句を読み、自分が必要とする情報を得る。
9 8単位 時間	Who is your hero? あこがれの人	<ul style="list-style-type: none"> 得意なことや表現の表し方が分かる。 自分があこがれたり尊敬したりする人について、まとまりのある話を聞いて具体的な情報を聞き取るとともに、その場で自分の意見を含めて質問したり紹介したりする。音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり、例を参考に語と語の区切りに気を付けながら書き写す。 他者に配慮しながら自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分があこがれたり尊敬する人について説明し、その人に対する自分の考えや気持ちなどを紹介する。 文字の音に慣れ親しみ、活字体の文字を読んだり書いたりする。 例文を参考に語と語の区切りに注意して、ある人を紹介している簡単な語句や基本的な表現を書き写す。

この年間指導計画例(案)では、児童が発話をする表現例・語彙例を記載している。5年生では、すべての単元を通じて次の活動を行うことを想定している。

表現例	新出語彙・語句例	既出表現・語彙例	HFとの関連
<p>Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell it? K-o-s-e-i. I [like/don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I have (old balls). I want (a new ball).</p>	<p>nice, to, meet, spell, new, old, very, much, class, badminton, chocolate, lettuce, name, animal</p>	<p>Hello. Good [morning/afternoon]. I'm (Hinata). I [like/don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer). I [have/want] (a pen). 活字体 (大文字, 小文字), 色, 飲食物, 果物, 野菜, 動物, 数, スポーツ</p>	<p>1-L1 1-L4 2-L1</p>
<p>When is your birthday? My birthday is (August 19th). Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer). What (sport) do you like? Do you want (a ball)? What do you want for your birthday? I want (a pen). Here you are. Thank you. You're welcome. Happy birthday.</p>	<p>月 (January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December), 季節 (spring, summer, autumn, fall, winter), 序数 (1st-31st), 状態や気持ちを表す語 (friendly, kind, active, cool, lovely, wonderful, funny, cheerful), your, birthday, when</p>	<p>Do you like (blue)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (blue). What (sport) do you like? Do you have (a pen)? What do you want? I want (potatoes). Here you are. Thank you. You're welcome. 活字体 (大文字, 小文字), スポーツ</p>	<p>2-L2</p>
<p>Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do./No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). Are you (a teacher)? Yes, I am./No, I'm not. I'm (a nurse).</p>	<p>教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, P.E., calligraphy, moral education), cleaning time, recess, 職業 (police officer, soccer player, doctor, baseball player, florist), study</p>	<p>Do you have (a pen)? Yes, I do./No, I don't. I [have/don't have] (a pen). What do you have? Are you (a dog)? Yes, I am./No, I'm not. I'm (a rabbit). 曜日</p>	<p>1-L8 2-L8</p>
<p>What time do you (get up)? I usually (get up) at (7:00). I always (wash the dishes).</p>	<p>always, usually, sometimes, never, at, 手伝いの表現 (wash the dishes, set the table, walk my dog, clean the room, get the newspaper)</p>	<p>What time is it? It's (8:30). 日課, 数 (1-60), 動作, 曜日, スポーツ, 教科</p>	<p>2-L6</p>
<p>Can you (sing well)? Yes, I can./No, I can't. [I/You/He/She] [can/can't] (sing well).</p>	<p>動作 (do, swim, cook, sing, ride, dance, speak, draw), 身の回りの物 (bicycle, unicycle, recorder, piano, guitar), can, can't, he, she, fast, well, high</p>	<p>Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer) very much. スポーツ, 動作, 日課</p>	<p>2-L3</p>
<p>Where do you want to go? I want to go to (Italy). Why? I want to [see/go to/visit] (Colosseo). I want to eat (spaghetti). I want to buy (a soccer ball). You can (play soccer). It's (cool).</p>	<p>国 (Australia, Peru, Thailand, the UK, the USA, Japan, Italy, Germany, Canada, Spain, France, Brazil, China, Korea, Russia, Egypt, India), 状態を表す語 (beautiful, delicious, popular, exciting, cute), 施設 (museum, temple, shrine, park, zoo, bridge), where, 動作 (visit, buy, drink, eat)</p>	<p>Do you want (a ball)? I want (a new ball). Why? I [like/don't like] (soccer). 動作, 状態や気持ちを表す語, 国, 飲食物</p>	<p>2-L5</p>
<p>Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right/left] (at the third corner). You can see it on your [right/left]. It's [on/in/under/by] (the desk).</p>	<p>身の回りの物 (cap, cup), 建物 (station, fire station, gas station, police station, post office, hospital, supermarket, convenience store, department store, flower shop), treasure, block, in, under, by, corner</p>	<p>Where do you want to go? Go straight. Turn [left/right]. Can you (sing well)? Yes, I can./No, I can't. Thank you. 動作</p>	<p>2-L4</p>
<p>What would you like? What (food) would you like? I'd like (spaghetti). This is my special menu. What's your special menu? It's for (my brother). How much? It's (100 yen).</p>	<p>飲食物 (curry and rice, french fries, fried chicken, grilled fish, macaroni salad, mineral water, parfait, table roll, bacon, drink, soda, tea, Japanese tea, dessert, omelet), 状態や気持ちを表す語 (fun, busy), 家族 (father, mother, sister, brother, grandfather, grandmother), enjoy, would, special, menu, table, 数 (seventy, eighty, ninety, hundred)</p>	<p>What do you want? I want (a new ball). How many? (Two), please. Do you like (soccer)? Do you want (a ball)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer). What (sport) do you like? This is for you. Here you are. Thank you. What's this? It's (a melon). 野菜, 飲食物, 状態や気持ちを表す語, 数 (1-60)</p>	<p>1-L9</p>
<p>Who is your hero? This is my hero. [He/She] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well). [He/She] is (kind). Can [you/he/she] (play baseball well)? Are you a good (baseball player)? Why? [He/She] is (cool).</p>	<p>hero, so, brave, strong, because, 気持ちや状態を表す語 (gentle, fantastic)</p>	<p>Who are you? Who am I? Are you (a teacher)? Yes, I am./No, I'm not. Hint, please. Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. Can you (sing well)? Yes, I can./No, I can't. [He/She] can (sing well). 状態や気持ちを表す語, 動作, スポーツ, 日課, 職業, 家族</p>	

[1] 帯活動で指導者による,あるいはデジタル教材等を活用した短い話を聞く活動(毎時間) [2] 文字と音の認識を深める活動(各単元)

第6学年 外国語 年間指導計画例(案)

時数	単元名	単元目標	主な活動例
1 8単位 時間	This is me. 自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介に関する表現や、文字の音が変わり、発音する。好きなことやできることなどについて、基本的な表現を読んだり、音声で慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す。 自己紹介を聞いて、その概要を捉えたり、自分の好きなことやできることなどについて伝え合う。自己紹介に関する簡単な語句を推測しながら読み、例を参考に、文の空欄に単語を書く。 他者に配慮しながら好きなことやできることなどを含めて伝え合うとする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した簡単な語句や基本的な表現などを使って、自己紹介をする。 例を参考に語と語の区切りに注意して、自己紹介の基本的な表現を書き写したり、意味を理解したりする。
2 8単位 時間	Welcome to Japan. 日本へようこそ	<ul style="list-style-type: none"> 行事や遊び、食べ物についての感想、味覚を表す表現が分かる。 日本文化について話を聞いて、概要を捉えたり、好きな日本文化について話したりする。日本文化に関する簡単な語句を読んだり、その意味が分かる。身近な話題について自分の考えや気持ちを伝え合ったり、外国人に紹介したい日本文化について、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする。 日本文化について伝え合うとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化について伝え合う。 例を参考に語と語の区切りに注意して、日本の文化に関する簡単な語句や基本的な表現を書き写す。
3 8単位 時間	He is famous. She is great. 日本や世界で 活やくする日本人	<ul style="list-style-type: none"> (主語+動詞+目的語)の文の語順に気付く。 ある人についてまとまりのある話を聞いて概要が分かる。自分やある人について、好みやできること等について伝え合うとともに、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた人物を紹介する文を読んで意味が分かる。音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って、例を参考に紹介したい人物について単語と単語の間のスペースに気を付けて、紹介文を書く。 ある人になったつもりで紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界で活躍する人物などに関する短い紹介を聞いたり、その人物などになったつもりで自己紹介したりする。 ある人物になりきって自己紹介したことを、語順を意識して書く。
4 8単位 時間	I like my town. 自分たちの町・地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域にどのようなものがあるかや欲しいか、地域のよさなどを表す表現が分かる。地域のよさや地域への願いが簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を書き写す。 地域のよさや課題などについて話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、自分が住む地域について、よさや願いなど自分の考えや気持ちを伝え合う。地域のよさや地域への願いについて、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで意味が分かったり、自分が住む地域についてのよさや願いを、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする。 地域のよさなどについて、伝えようとしたり、書かれたものを読んだり書いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの町について自分の考えを発表する。 例を参考に語と語の区切りに注意して、自分たちの町に関する基本的な表現を書き写す。
5 8単位 時間	My Summer Vacation 夏休みの思い出	<ul style="list-style-type: none"> 過去の表現の仕方が分かったり、夏休みの思い出について基本的な表現で書かれた英語を書き写す。 夏休みの思い出について話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、夏休みの思い出について自分の考えや気持ちを伝え合う。夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで、その意味が分かったり、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを語順を意識しながら書く。 夏休みの思い出について、伝えようとしたり、書いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について伝え合う。 夏休みの思い出について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを推測しながら読む。 語順を意識しながら簡単な語句や基本的な表現例から選んで書く。
6 6単位 時間	What sport do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	<ul style="list-style-type: none"> 競技名や国の言い方が分かる。 オリンピックやスポーツなどについて話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、観たい競技などについて自分の考えや気持ちを伝え合う。競技名や国名を表す簡単な語句を読んで、その意味が分かったり、書き写したりする。 観たい競技などについて伝え合うとしたり、書かれたものを読もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピックで観たい競技について尋ねたり答えたりして伝え合う。 観たい競技について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読む。 語順を意識しながら簡単な語句や基本的な表現の例から選んで書く。
7 8単位 時間	My Best Memory 小学校生活・思い出・行事	<ul style="list-style-type: none"> 過去の表現の仕方が分かる。世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付く。 学校行事について簡単な語句や基本的な表現で話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて心に残っている学校行事について自分の考えや気持ちを伝え合ったりする。学校行事について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする。 思い出の学校行事について、伝え合うとしたり、書かれたものを読んだりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校生活を振り返り、思い出に残る行事について伝え合う。 小学校生活の思い出について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読む。 語順を意識しながら簡単な語句や基本的な表現の例から選んで書いたりする。
8 8単位 時間	What do you want to be? 将来の夢・職業	<ul style="list-style-type: none"> 職業を表す語や、就きたい職業を表す表現が分かる。 将来の夢や職業について簡単な語句や基本的な表現で話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。将来就きたい仕事や夢について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで、その意味が分かる。将来就きたい仕事や夢について、自分の考えや気持ちを伝え合ったり、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。 将来の夢などについて、伝えようとしたり、書かれたものを読んだり書いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来の夢について発表する。 将来の夢について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読む。 語順を意識しながら簡単な語句や基本的な表現の例から選んで書く。
9 8単位 時間	Junior High School Life 中学校生活・部活動	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の部活動や学校行事などについての表現が分かる。 中学校で入りたい部活や楽しみな行事などについて、自分の考えや気持ちを伝え合ったり、例を参考に、中学校で入りたい部活や楽しみな行事などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の考えを書く。 他者に配慮しながら中学校生活について発表したり、書かれたものを読んだり書いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校でやってみたいことについて伝え合う。 中学校や将来の夢について、例を参考に情報を補ってスピーチの原稿を完成する。

この年間指導計画例(案)では、児童が発話をする表現例・語彙例を記載している。6年生では、すべての単元を通じて次の活動を行うことを想定している。

表現例	新出語彙・語句例	既出表現・語彙例	HFとの関連
I'm from (Shizuoka). My nickname is (Ken). I [like/play] (soccer). I can (play soccer well). I want to go to (Brazil). I want to watch (soccer games). My birthday is (August 19th). What (subject) do you like?	from, nickname, watch, subject, me	Hello. I'm (Saki). I [like/play] (soccer). I can (play soccer well). I want to go to (Italy). What (sport) do you like? What do you study? Do you (play baseball)? When is your birthday? I want (a new ball). Who am I? Why? this, is, me, you, スポーツ, 教科, 月, 序数 (1st-31st)	1-L4 1-L5 2-L2 2-L3
Welcome to Japan. In (summer), we have (Star Festival). I [like/enjoy] (rakugo). Why do you like it? We have (sushi). It's (delicious).	culture, star, year, festival, firework, party, traditional, 日本の行事 (New Year's Day, Girls' Festival, Boys' Festival, Star Festival, Snow Festival), 味覚 (sweet, bitter, sour, salty), soft, hard, interesting	Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer). What (sport) do you like? I can (play soccer well). to, is, your, favorite, 状態や気持ちを表す語, スポーツ, 飲食物, 季節, 月	
I am (Ken). I [like/play] (baseball). I [have/want] (a new ball). I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim/cook/skate/ski/sing/dance]. I can (play baseball well). Who is this? [He/She] is [famous/great].	famous, live, bat, racket, nut, computer, sneakers	I'm (Saki). I [like/play] (soccer). I can (play soccer well). he, she, スポーツ, 動作, 状態や気持ちを表す語	2-L3
We [have/don't have] (a gym). We can (play basketball). We can enjoy (jogging). (Sakura-cho) is a nice town.	we, town, 施設 (amusement park, aquarium), think, but, plant, nature, 動作 (jogging, playing, reading, shopping)	This is my favorite place. It's (cool). I want (a new ball). Why? 施設, 建物, 状態や様子を表す語, 飲食物, 動作, スポーツ, enjoy, have, want, buy, see, eat, play	
I went to my (grandparents' place). It was (fun). I enjoyed (fishing). It was (exciting). I saw (the blue sea). It was (beautiful).	grandparent, vacation, 動詞過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was), 自然 (beach, mountain, sea, lake, river), 動作 (fishing, hiking, camping)	I'm from (Shizuoka). I [like/play] (soccer). my, it, スポーツ, 食べ物, 季節, 動作, 身の回りの物, 状態や気持ちを表す語	
What sport do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball) on TV. Why? I like (basketball). (He) is good at (playing tennis). (He) is a great (tennis player).	TV, Olympic Games, Paralympic Games, スポーツ (wheelchair basketball, wheelchair tennis, athletics, climbing, archery, boxing, canoe, cycling, gymnastics, football, rugby, surfing, sailing, wrestling, weight lifting)	I [like/play] (soccer). I can (play soccer well). I want to go to (Brazil). Why? [He/She] is (famous). What (sport) do you like? Do you [play/like] (baseball)? スポーツ, 国	2-L5
What's your best memory? My best memory [is/was] (our school trip). We [went to (Kyoto)/ate (Japanese foods)/saw (old temples)/enjoyed (the trip)].	best, memory, 学校行事 (sports festival, entrance ceremony, graduation ceremony, swimming meet, field trip, school trip, music festival, volunteer day, drama festival)	I went to my (grandparents' place). It was (fun). I enjoyed (fishing). It was (exciting). I saw (the blue sea). It was (beautiful). school, we, 季節, 教科, 状態や気持ちを表す語	
What do you want to be? I want to be (a vet). Why? I like (animals). I can (save animals). That's good. Good luck.	be, luck, future, 職業 (astronaut, cook, nurse, pilot, singer, flight attendant, vet, zoo keeper, comedian, baker, dentist, artist, farmer, bus driver)	Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer). I want to [see/go to/visit] (Colosseo). I can (sing well). (He) is good at (playing tennis). What (sport) do you like? What do you want? I want (a new ball). Why? [He/She] is (cool). 職業, 動作, 動詞過去形, スポーツ, 動物	2-L8
I want to [join (the soccer club)/study hard/read many books/make many friends].	club, team, practice, join, junior, us, track and field, make, read	Do you like (soccer)? Yes, I do./No, I don't. I [like/don't like] (soccer). I want to [see/go to/visit] (Colosseo). I can (sing well). I am good at (playing tennis). What (sport) do you like? What do you want to be? I want to be (a vet). I like (animals). I can (save animals). 動作, 身の回りの物, スポーツ, 職業, 日課, 曜日, 状態や気持ちを表す語	

[1] 帯活動で指導者と児童, 児童どうしてやり取りをする活動 (毎時間) [2] 文字と音の認識を深める活動 (各単元)

1. 単元目標

- 夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを言ったり聞いたりすることができる。(知識及び技能)
- 過去の表現が分かり、夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを伝え合う。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを、語順を意識しながら書いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- 他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

2. 言語材料

- I went to (my grandparents' place). It was (fun). I enjoyed (fishing). It was (exciting).
I saw (the blue sea). It was (beautiful).
- grandparent, vacation, 動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was),
自然 (beach, mountain, sea, lake, river),
動作 (hiking, camping, shopping, swimming, fishing)

3. 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

4. 単元計画 (8 時間)

時	目標(◆)と主な活動([], ○) * [] = 誌面化されている活動	◎ 評価(方法)
1	<p>◆夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。</p> <p>○Small Talk 話題：夏の食べ物</p> <p>【Let's Listen ①】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登場人物が、夏休みの思い出について話している英語を聞き、行った場所、そこでしたこと、食べた物の話の内容に合うように、誌面上の絵を線で結ぶ。 <p>【Let's Play】ポインティング・ゲーム①②</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指導者が言う施設・場所、動作、食べ物の絵を指す(①個人、②ペア)。 	

○Let's Play

- 夏休みに行った場所をペアで伝え合う。

S1: I went to the sea. How about you?

S2: I went to the mountains.

S1: I see. Thank you.

○Let's Read and Write

書く文例: I went to (the sea).

- デジタル教材の音声を聞きながら読んだ [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

○単元の終末の活動を知る

◎ I went to ~. を使って夏休みに行った場所を言ったり聞いたりすることができる。〈行動観察〉

2

- ◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。
- ◆過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

【Let's Play】ポインティング・ゲーム ①②

- 指導者が言う施設・場所、動作、食べ物の絵を指す (①個人、②ペア)。

【Let's Watch and Think ①】

- 世界の国々の子供たちが夏休みの思い出について話している映像資料を視聴し、分かったことを誌面に記入する。

○Let's Play フェイント・リピート・ゲーム

- 感想を表す形容詞: fun, exciting, interesting, delicious, nice, good, great, wonderful, cool, beautiful

【Let's Chant】Summer Vacation

○Let's Talk

- 夏休みに行った場所とその感想をペアで伝え合う。

S: I went to the sea. It was beautiful. How about you?

○Let's Read and Write

書く文例: I went to (the sea). It was (fun).

- 音声を聞いて繰り返し読んだ [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

○Sounds and Letters

- /p/ の音で始まる単語を発表し合い、4 線上に p を書く。

◎夏休みの思い出についての話を聞いて、行った場所やしたことを誌面に書くことができる。〈記述観察〉

◎ I went to ~. It was ~. などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。〈行動観察〉

3

- ◆過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

○Small Talk 話題: 夏休みの思い出 (行った場所・感想)

【Let's Chant】Summer Vacation

○Let's Talk

- 5 ~ 6 人で 1 グループを作り、順に夏休みに行った場所を話していく。その際、前の人が出た場所を言い、それに付け加えて自分が言った場所を話す。
- 次に、行った場所に感想を付け加えて言い、同様の活動を行う。

【Let's Play】ポインティング・ゲーム

- 指導者が言う語を繰り返して言い、誌面にあるその絵を指さす。
- 感想を表す形容詞: fun, exciting, interesting, delicious, nice, good, great, wonderful, cool, beautiful

○Let's Read and Write

書く文例: I went to (the park). It was (nice).

- 音声を聞いて繰り返し [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

◎ I went to ~. It was ~. などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。〈行動観察〉

4 ◆夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりする。

【Let's Chant】 Summer Vacation

【Let's Listen ②】

・登場人物3人が、夏休みに行った場所、したこと、食べた物、その感想を話している英語の音声のみを数回聞いて、内容に合うように誌面にある登場人物と絵を選ぶ。その後、改めて英語の音声を聞き、解答を確認する。

○Let's Play

・指導者は、昨夜あるいは今朝食べた物を、絵カードを見せながら言う。一方的に言うのではなく、児童にそれを食べたか、好きかなど尋ねながら言う。
・児童は、ペアになり、昨夜の夕食、今日の朝食で食べた物を相手に伝え合う。両隣・前後・斜めのペアで行う。

○Let's Talk

・夏休みに行った場所と食べた物、その感想について、ペアで話す。ペアを替えて、複数回対話をする。

S: I went to the sea. I ate *yakisoba*. It was delicious. How about you?

○Let's Read and Write

書く文例: I ate (pizza). It was (delicious).

・音声を聞いて繰り返し読んだ【言った】後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

○Sounds and Letters

・/r/の音で始まる単語を発表し合い、4線上にrを書く。

◎ I went to ~. I ate ~. It was ~. を使って、夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりすることができる。〈行動観察〉

5 ◆夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。

○Small Talk 話題: 夏休みの思い出(行った場所・食べた物・感想)

【Let's Watch and Think ②】

・登場人物3人が、質問をしたり答えたりして、それぞれ夏休みにしたこと、その感想を話している映像資料を視聴し、登場人物が夏休みにどこへ行き、何をしたかを誌面の表に記入する。

○Let's Play マッチング・ゲーム

・ペアになり、一人が場所や食べ物、動作の絵カードを持つ。もう一人が感想を表す形容詞の絵カードを持つ。
・それぞれが、相手に見えないように一枚ずつカードを選んで発話をし、意味が合えばマッチした組み合わせとしてカードをよける。

S1: I enjoyed [hiking/camping/swimming/shopping/fishing/playing baseball].

S2: It was [fun/exciting/interesting/cool/great/delicious/wonderful/beautiful].

○Let's Play

・ペアで夏休みにしたことを言い合う。

S: I went to the mountains. I enjoyed hiking. It was nice. How about you?

○Let's Read and Write

書く文例: I enjoyed (fishing). It was (exciting).

・音声を聞きながら読んだ【言った】後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

◎ I went to ~. I enjoyed ~. It was ~. を使って、夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりすることができる。〈行動観察〉

6 ◆夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想が分かる。
◆過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所、楽しんだこと、食べた物、その感想について伝え合う。

【Let's Chant】 Summer Vacation

【Let's Listen ③】

・登場人物4人が、ある場所に行ってしたこと、その感想を話し、最後に Guess where I went. とクイズを出している英語の音声を聞き、登場人物がどこで何をしたのかを考えて、誌面の絵から選ぶ。(デジタル教材では、クイズを出した時に、画面に山、ショッピング・モール、川、遊園地、祭り、古い町並み、プールのイラストや写真が表示される)

◎夏休みの思い出について話を聞き、行った場所、したことなどが分かり、内容に合う絵を選ぶことができる。〈行動観察〉

○Let's Play カード・デスティニー・ゲーム

- ペア対抗で行う。動作、食べ物、感想絵カード(単語付)を分けて持ち、それぞれ机の上に並べる。指導者がI went to (施設・場所). と言うのを聞いて、それに関連する絵カードを持っている方が、その絵カードを出しながら、後に文を続けて言う。①動作、②感想、③食べ物、④感想の順。早く絵カードがなくなったペアが勝ち。

①I enjoyed ~. → ②It was ~. → ③I ate ~. → ④It was ~.

○Let's Talk

- 夏休みの思い出に関して、「行った場所」「楽しんだこと」「食べた物」「感想」のいずれかについて、誌面を参考にしてペアに話す。

○Sounds and Letters

- /s/の音で始まる単語を発表し合い、4線上にsを書く。

◎I enjoyed -ing. や I ate ~. などを使って、夏休みに楽しんだことや食べた物について伝え合っている。(行動観察)

- 7 ◆夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。

○Small Talk 話題：週末の思い出(行った場所・楽しんだこと・感想)

【Let's Read and Watch】

- まず、夏休みの思い出について書かれた英文を読む。その後、その英文が話されている映像資料を視聴して内容を確認する。
- 映像資料の音声に合わせて英文を読む。その後、映像資料の音声を消して、映像資料の英文を再度読む。

○Let's Read and Write

- 夏休みの思い出について、行った場所、食べた物、したことなど前時までにワークシートに書き写した文を読む。
 - I went to the sea. It was fun.
 - I went to the park. It was nice.
 - I ate pizza. It was delicious.
 - I enjoyed fishing. It was exciting.

【Activity】

- ペアで夏休みの思い出について伝え合う。相手を替えて繰り返す。

◎夏休みの思い出について書かれた英文を読んで内容を理解し、その英文を書いた人物を選んでいる。(記述観察)

◎I went to ~. I ate ~. I enjoyed -ing. It was ~. などを使って、夏休みの思い出について伝え合おうとしている。(行動観察)

- 8 ◆自分の夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書こうとする。

○Let's Read and Write

- 夏休みの思い出について、前時までに書き写した文を参考に、行った場所、食べた物、楽しんだこと、感想を思い出アルバム用のシートに清書する。

○Activity

- 児童が前時で書いたアルバム用シートのいくつかを聞いたり読んだりして、それが誰なのかを考えて発表する。

【Story Time】

- 取り扱うライムは -ish.
- デジタル教材でライムの単語とそれらが含まれる文を2~3回聞く。その後、音声の後について言う。
- ライムしている単語だけを読み出す。
- ライムしている句や文だけを2~3回読んでみる。

◎夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考にしながら書こうとしている。(行動観察・記述観察)

5. 単元・授業構成上の留意点

(1) 単元計画構成上の留意点

① 「聞くこと」(L)、「話すこと」(S)、「読むこと」(R)、「書くこと」(W)の順序性を踏まえる

以下は、Unit 5 の各時間の目標として取り上げられている領域である。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
S	L・S	S	S	S	L・S	S・R	W

このように、単元計画を立案する際は、「聞くこと」「話すこと」の言語活動に取り組みさせることから始め、語句や表現に音声で十分慣れ親しませた後、それらを単元後半に読んだり書いたりするという順序性を基本とすることが大切である。

② 単元を通じて繰り返し取り組ませる活動を位置付ける

Unit 5 には、以下のように、「Small Talk」「Sounds and Letters」「Let's Read and Write」の3つの活動が単元を通じて継続的に位置付けられている。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
Small Talk	○		○		○		○	
Sounds and Letters		○		○		○		
Let's Read and Write	○	○	○	○	○		○	○

「Sounds and Letters」は、小学校学習指導要領第10節「外国語」の第2、1(2)読むことイに沿ったものである。「Let's Read and Write」は、文を音声化したり、自己表現のために例文を見ながら書き写したりすることが目的である(※「Small Talk」については p.84-85 を参照)。いずれの活動も、付きたい力を身に付けるためには繰り返し取り組ませることが必要であるため、基本的に毎時間位置付けられている。中学校「外国語」授業のいわゆる「帯活動」のような活動である。

(2) 授業構成上の留意点(ねらいと評価の焦点化)

〈図表1〉に示したのは、第1時の学習過程(簡易版)である。本時は5つの言語活動により構成されており、目標は「夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする」であり、当該目標の達成状況は、4つ目の活動「Let's Play」で見届ける。つまり、異なる複数の領域の言語活動に取り組ませてはいるが、できるようになる段階までは求めない(できるようになるには本時以降も継続して取り組ませる必要がある)言語活動がある、ということである。言い換えると、ねらいと評価を焦点化することである。

児童の活動	
1	○ Small Talk
2	【Let's Listen ①】
3	【Let's Play】 ポインティング・ゲーム
4	○ Let's Play 夏休みに行った場所をペアで伝え合う。
5	○ Let's Read and Write

〈図表1〉本単元第1時の学習過程(簡易版)

単元及び授業は、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の順序性を基本的に踏まえる。単元は継続的に取り組ませる言語活動を位置付けること、授業はねらいと評価規準の焦点をしぼることが必要である。

指導案

1/8時間

目標 夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。

準備 デジタル教材……〔テ教〕、児童用テキスト……〔テキスト〕、ワークシート……〔WS〕、
振り返りカード……〔振力〕

指導者

中核教員

現職教員

授業研究編

II

外国語

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	• 挨拶をする。	• 全体に挨拶し、個別に数名の児童にも挨拶する。	
5分	○Small Talk 話題：夏の食べ物 S1: What food do you like in summer? S2: I like watermelon. S1: Me, too. Why? S2: It's sweet. How about you?	※ Small Talk の指導の具体や発話例については、「授業研究の視点⑤ Small Talk (p.84-85)」参照	
14分	【Let's Listen ①】 • 登場人物が夏休みの思い出について話している英語を聞き、行った場所、そこでしたこと、食べた物を話の内容に合うように、誌面上の絵を線で結ぶ。 • 2回程度繰り返して聞いた後に、答えを確認する。	T: Let's listen to the talk. デジタル教材の英語 A: I went to the mountains. I enjoyed camping. It was fun. B: I went to the zoo. I saw a panda. It was cute. C: I went to the sea. I enjoyed fishing. I ate o-bento. It was delicious. T: I went to the sea during the summer vacation. How about you? S1: Sea. T: You went to the sea. Good. How about you? (他の児童を指名して) S2: Mountain. T: Oh, you went to the mountain. That sounds nice. S2, I went to...? S2: I went to the mountain. T: OK. How about S3? • ここでは、映像資料で出会った I went to ~. を繰り返し聞かせることがねらいであるため、無理に言わせることはせず、促す程度に留めるとよい。	〔テ教〕 〔テキスト〕
10分	【Let's Play】ポインティング・ゲーム ①② • 指導者が言う、施設・場所、動作、食べ物の誌面上の絵を指す。 〈施設・場所〉 mountain, sea, amusement park, grandparents' place 〈動作〉hiking, swimming, fishing, shopping 〈食べ物〉ice cream, watermelon, curry and rice, shaved ice • 指導者の後に続いて、I went to ~. 等を付けて繰り返しながらゲームに取り組む。	T: Let's play the 'Pointing Game.' When you hear the name, touch the picture. • 指導者は、以下の表現を言う。 (施設・場所の場合)…… I went to... (動作の場合)…… I enjoyed... (食べ物の場合)…… I ate... • まず①個人で、慣れてきたら②ペアで行う。 • 食べ物の絵カードは、前单元と重なるものについては同じカードを使うとよい。 • この活動は、前活動で繰り返し聞いた I went to ~. を含め、I ate ~. I enjoyed ~. を、さらに繰り返し聞いたり言ったりすることがねらいであるため、児童にしっかり言わせるようにする。	〔テキスト〕
5分	○Let's Play • 夏休みに行った場所をペアで伝え合う。 S1: I went to the sea. How about you? S2: I went to the mountain. S1: I see. Thank you.	• ペアで夏休みに行った場所について伝え合うよう指示する。両隣、前後、斜めと時間内に相手を替えて行う。 • 何度も聞いたり言ったりした I went to ~. を使って自分のことを言わせることがねらいである。海や山などの特別なところに行かなかった児童もいることに配慮し、学校や近くの公園、買い物等も含めて伝え合うよう指示する。 ◎ I went to ~. を使って夏休みに行った場所を言ったり聞いたりすることができる。〈行動観察〉	
5分	○Let's Read and Write 書く文例：I went to (the sea). • デジタル教材の音声を聞いて繰り返し読んだ [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the wordbox.	〔テ教〕 〔WS〕
2分	○単元の終末の活動を知る • 単元の終末では、クラスの仲間の夏休み思い出アルバムを作ることを確認する。	• 指導者は、自分自身の夏休みの思い出について書いたものを提示するなどして、単元終末の活動への見通しや意欲をもたせるようにする。	
3分	• 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 • 挨拶をする。	• 本時のねらいに照らして児童を評価する。 • 挨拶をする。	〔振力〕

- 目標** ・夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。
 ・過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。
- 準備** デジタル教材…デ教、児童用テキスト…テキスト、
 絵カード(施設・場所、動作、食べ物、感想を表す形容詞)…絵力、
 ワークシート…WS、振り返りカード…振力

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物												
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。													
9分	【Let's Play】 ポインティング・ゲーム ①② ・前時と同様に取り組む (①個人、②ペア)。	・前時と同じ要領で行う。	絵力												
5分	【Let's Watch and Think ①】 ・世界の国々の子供たちが夏休みの思い出について話している映像資料を視聴し、誰が何をしたかなどを誌面の表に記入する。また、日本の夏休みとどのように違うのか比べながら聞く。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Amy (the USA)</th> <th>John (Australia)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行った場所</td> <td>山 きれいだった</td> <td>公園 よかった</td> </tr> <tr> <td>したこと</td> <td>キャンプをした 楽しかった カレーを食べた おいしかった</td> <td>フットボールをした わくわくした サンドウィッチを食べた おいしかった</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>夏休みが長い</td> <td>今は冬</td> </tr> </tbody> </table> ・2回程度繰り返して聞いた後、答えを確認する。		Amy (the USA)	John (Australia)	行った場所	山 きれいだった	公園 よかった	したこと	キャンプをした 楽しかった カレーを食べた おいしかった	フットボールをした わくわくした サンドウィッチを食べた おいしかった	その他	夏休みが長い	今は冬	T: Let's listen to the talk. デジタル教材の英語 A: Hello, everyone! I'm Amy. I'm in the USA. We have a long summer vacation from June to August. I went to the mountain. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun. I ate curry and rice. It was delicious. B: Hello, everyone! I'm John. I'm in Australia. It is winter in Australia. I went to the park. It was nice. I enjoyed Australian football with my friends. It was exciting. I ate sandwiches. They were good. ◎夏休みの思い出についての話を聞いて、行った場所やしたことを誌面に書くことができる。(記述観察)	デ教 テキスト
	Amy (the USA)	John (Australia)													
行った場所	山 きれいだった	公園 よかった													
したこと	キャンプをした 楽しかった カレーを食べた おいしかった	フットボールをした わくわくした サンドウィッチを食べた おいしかった													
その他	夏休みが長い	今は冬													
5分	○Let's Play フェイント・リピート・ゲーム ・感想を表す形容詞を使って取り組む。 fun, exciting, interesting, cool, delicious, beautiful, good, nice, great, wonderful	・黒板に、児童と言い方を確認しながら感想を表す形容詞絵カードを張る。 ・指導者が指すものを、指導者の後について発音するように言う。慣れてきたら、指導者は、指したものと違う語を言う。児童はそれに惑わされず指されたものの語を言う。	絵力												
5分	【Let's Chant】 Summer Vacation	・まず、チャンツを聞かせ、どのような音が聞こえたかを発表させる。聞こえた語を児童と確認してから、一緒にチャンツを言う。	デ教												
5分	○Let's Talk ・夏休みに行った場所とその感想についてペアで伝え合う。 S1: I went to the sea. It was beautiful. How about you? S2: I went to the mountain. It was nice. S1: I see. Thank you.	T: Now, let's talk about your summer vacation memories. ・前時の「Let's Play」で伝え合ったことに感想を加える形で児童に言わせるとよい。また、海や山などの特別なところに行かなかった児童もいることに配慮し、学校や近くの公園、買い物等も含めて伝え合うよう指示する。 ◎ I went to ~. It was ~. などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。(行動観察)													

5分	<p>○Let's Read and Write</p> <p>書く文例：I went to (the sea). It was (fun).</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を聞いて繰り返し読んで[言った]後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。 	<p>T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook.</p> <p>Listen to the sentence again and read it.</p> <p>Copy one word from the wordbox.</p>	<p>テ教</p> <p>WS</p>
5分	<p>○Sounds and Letters</p> <ul style="list-style-type: none"> ジングルを一通り聞く。 誌面にある p で始まる単語を見て、発音する。その音で始まる単語を制限時間内に発表し合う。 ワークシートの4線上に p の文字を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> (時間に余裕があれば) ジングルを聞かせる。(※ 1) <p>T: Listen to the jingle.</p> <p>Let's say the jingle together.</p> <p>Look at the pictures in your textbook.</p> <p>Please repeat after the jingle.</p> <ul style="list-style-type: none"> サウンド・テニス(※ 2) をすることを告げる。 <p>T: Let's play 'Sound Tennis.'</p> <p>Think any words starting with /p/.</p> <p>Now, say the words within five seconds.</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、指導者と児童全員で行い、児童が慣れてきたらペア対抗で行わせたり、制限時間を短くしていくなどするとよい。 ワークシートの4線上に p の文字を書くよう指示する。 <p>T: Please write the letter with the sound /p/.</p>	<p>テ教</p> <p>テキスト</p> <p>WS</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。 	<p>振力</p>

- ※ 1 ジングルは、5年生は新教材の誌面及びデジタル教材で扱われており、6年生は新教材のデジタル教材のみに収録されている。
- ※ 2 サウンド・テニスとは、学習している音(ここでは /p/)への気付きを高め、既習単語を復習することを目的とした活動である。

〈活動の手順〉

- 2つのグループに分かれる。児童の実態や、この活動に取り組み始めて間もない頃は、指導者対児童で行うことも考えられる。
- 学習している音(ここでは /p/)から始まる単語を考える。
- 学習している音(/p/)から始まる単語を制限時間内に言うことができるように競う。(Five, four, three, two, one, time is up! など指でカウントしながら時間が経つことを伝えるとよい)
- 制限時間内に単語が言えないグループが負けとなる。

指導案

3/8時間

目標 過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

準備 デジタル教材…デ教、児童用テキスト…テキスト、絵カード(感想を表す形容詞)…絵力、ワークシート…WS、振り返りカード…振力

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
9分	○ Small Talk 話題：夏休みの思い出(行った場所・感想) S1: I went to the amusement park. It was fun! S2: You went to the amusement park. That's nice! S1: How about you? S2: I went to Okinawa. It was beautiful! S1: You went to Okinawa. That's great.	※ Small Talk の指導の具体や発話例については、「授業研究の視点⑤ Small Talk(p.84-85)」参照	
5分	[Let's Chant] Summer Vacation	・一緒にチャンツを言う。	デ教
10分	○ Let's Talk ・夏休みに行った場所や感想を伝え合う。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <活動の手順> <ul style="list-style-type: none"> ・5～6人でグループを作る。 ・グループで円になり、それぞれ伝える「夏休みに行った場所」を決める。 ・最初の児童が自分の「夏休みに行った場所」を言う。 ・次の児童は、前の児童が言ったことを You～. と繰り返して言った後、自分の「行った場所」を付け足す。 ・その順番で最後の児童まで、場所を付け足し、文を言っていく。 ・どのグループが最初に全員が言い終わるかを競う。 ・次に、行った場所に感想を付け加えて言い、同様の活動を行う。 </div> S1: I went to the sea. S2: You went to the sea. And I went to the swimming pool. S3: You went to the swimming pool. And I went to the amusement park.	・夏休みに行った場所や感想をグループで伝え合うことを告げる。 T: Let's talk in groups. ◎ I went to～. It was～. などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。(行動観察)	
10分	[Let's Play] ポインティング・ゲーム ・感想を表す形容詞を使ってポインティング・ゲームを行う。 fun, exciting, interesting, cool, delicious, beautiful, good, nice, great, wonderful	・ポインティング・ゲームをすることを告げる。 ・指導者が言う It was～. を繰り返し、誌面にある感想を表す絵を指す。児童が慣れてきたら、指導者は感想だけでなく、I [went to/ate/enjoyed]～. It was～. と言い、児童に You [went to/ate/enjoyed]～. It was～. と繰り返して言わせるようにする。	絵力 テキスト
5分	○ Let's Read and Write 書く文例：I went to (the park). It was (nice). ・音声を聞いて繰り返し読んで [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the wordbox.	デ教 WS
5分	・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振力

指導案

4/8時間

目標 夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりする。

準備 デジタル教材…[デ教]、児童用テキスト…[テキスト]、絵カード(食べ物)…[絵力]、ワークシート…[WS]、振り返りカード…[振力]

指導者

中核教員

現職教員

授業研究編

II

外国語

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 © 評価 (方法)	準備物
1分	•挨拶をする。	•全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
4分	【Let's Chant】 Summer Vacation	•一緒にチャンツを言う。	[デ教]
10分	【Let's Listen ②】 •音声を数回聞いて、内容に合うように誌面にある登場人物と絵を線で結ぶ。その後、解答を確認する。	•3人の登場人物が夏休みに行った場所、したこと、食べた物、その感想を話している英語の音声を聞かせ、誌面上の登場人物と絵を選ばせる。 T: Let's listen to the talk. デジタル教材の英語 A: I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. It was fun. And I ate watermelon. B: I went to the countryside. I enjoyed fishing. It was exciting. I ate o-bento. C: I went to the town. I enjoyed shopping. I ate ice cream. It was delicious.	[デ教] [テキスト]
10分	○Let's Play •児童は、ペアになり、昨夜の夕食、今日の朝食で食べた物を相手に伝え合う。両隣・前後・斜めのペアで行う。	•指導者は、昨夜と今朝食べた物を、絵カードを見せながら紹介する。一方的に言うのではなく、児童にそれを食べたか、好きかなど尋ねながら紹介する。この活動を通して I ate ~. の言い方を何度も聞かせ、次のペア活動につなげる。 T: I ate ~ last night. I liked it! How about you? Do you like ~? ...	[絵力]
5分	○Let's Talk •夏休みに行った場所と食べた物、その感想について、ペアで話す。 S1: I went to the sea. I ate <i>yakisoba</i> . It was delicious. How about you? S2: I went to the department store. I ate pizza. It was great. S1: I see. Thank you. •ペアを替えて、複数回対話をする。	•指導者はまず、自分が夏休みに行った場所や食べた物などを紹介し、1人の児童(S1)に How about you? と投げかける。S1の発話を助ける。これを数名と繰り返し、児童にやり方を理解させるようにする。 T: I went to the sea. I ate ice cream. It was delicious. How about you? S1: I went to the amusement park. I ate a hamburger. It was good. T: That's nice. Now, let's talk in pairs. © I went to ~. I ate ~. It was ~. を使って、夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりすることができる。(行動観察)	
5分	○Let's Read and Write 書く文例: I ate (pizza). It was (delicious). •音声を聞いて繰り返し読んだ [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the wordbox.	[デ教] [WS]
5分	○Sounds and Letters •ジングルを一通り聞く。 •誌面にある r で始まる単語を見て、発音する。その音で始まる単語を制限時間内に発表し合う。 •ワークシートの4線上に r の文字を書く。	•(時間に余裕があれば) ジングルを一通り聞かせる。 T: Listen to the jingle. Let's say the jingle together. Look at the pictures in the textbook. Repeat after the jingle. •サウンド・テニスをするのを告げる。 T: Let's play 'Sound Tennis.' Think any words starting with /r/. Now, say the words within five seconds. •まず、指導者と児童全員で行い、児童が慣れてきたらペア対抗で行わせたり、制限時間を短くしていくなどするとよい。 •ワークシートの4線上に r の文字を書くよう指示する。 T: Please write the letter with the sound /r/.	[デ教] [テキスト] [WS]
5分	•本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 •挨拶をする。	•本時のねらいに照らして児童を評価する。 •挨拶をする。	[振力]

指導案

5/8時間

目標 夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。

準備 デジタル教材…デ教、児童用テキスト…テキスト、
絵カード(食べ物、場所、動作、感想を表す形容詞)…絵力、ワークシート…WS、
振り返りカード…振力

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物												
1分	•挨拶をする。	•全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。													
9分	<p>○Small Talk 話題：夏休みの思い出 (行った場所・食べた物・感想) S1: I went to Okinawa. I ate <i>mimiga</i>! It was OK. S2: <i>Mimiga</i>? S1: Pig's ear. S2: Pig's ear!? S1: Yes. How about you? S2: I went to Yokohama. I ate <i>shumai</i>! It was delicious. S1: It was delicious. That's nice.</p>	<p>※ Small Talk の指導の具体や発話例については、「授業研究の視点⑤ Small Talk (p.84-85)」参照 ※ 左記の話題にした理由：前時の復習のため。</p>													
7分	<p>【Let's Watch and Think ②】 •映像資料を視聴し、登場する人たちが夏休みにどこへ行き、何をしたかを理解する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>したこと</th> <th>感想</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Tricia</td> <td>野球の試合を観た</td> <td>わくわくした</td> </tr> <tr> <td>Craig</td> <td>ハイキングをした</td> <td>よかった</td> </tr> <tr> <td>Ken</td> <td>川へ行った</td> <td>魚がおいしかった</td> </tr> </tbody> </table>		したこと	感想	Tricia	野球の試合を観た	わくわくした	Craig	ハイキングをした	よかった	Ken	川へ行った	魚がおいしかった	<p>T: Let's watch and listen to the conversations.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>デジタル教材の英語</p> <p>Tricia: Hi, Craig. You look happy. Did you have a good time during the summer vacation?</p> <p>Craig: Yes. I went to the White Mountains. I enjoyed hiking with my family. It was great. How about you? How was your summer?</p> <p>Tricia: I went to a baseball stadium. I enjoyed watching a baseball game. It was very exciting.</p> <p style="text-align: center;">* * * * *</p> <p>Yoko: Hi, Ken. How was your vacation? Did you enjoy it?</p> <p>Ken: Well, we went to the river. But it rained every day.</p> <p>Yoko: Oh, that's too bad.</p> <p>Ken: But I enjoyed the food there. The fish was especially fresh and good.</p> <p>※ Did you ~? など未習語も含むが、ここでは、やり取りの様子を聞かせることを優先させている。未習語は、聞き取る情報(したこと、感想)をつかませる上で支障がない。</p> </div>	デ教 テキスト
	したこと	感想													
Tricia	野球の試合を観た	わくわくした													
Craig	ハイキングをした	よかった													
Ken	川へ行った	魚がおいしかった													
10分	<p>○Let's Play マッチング・ゲーム S1: I enjoyed [hiking/camping/swimming/shopping/fishing/playing baseball]. S2: It was [fun/exciting/interesting/cool/great/delicious/wonderful/beautiful].</p>	<p>T: Let's play the 'Matching Game.' One volunteer, please. (前に出た児童 S に感想カードを渡し、指導者は場所や食べ物の絵カードを持つ) Choose one card. Don't show it to me. I'm going to take one card. Look. My card is "I ate sushi." What's your card? S: "It was beautiful." T: Oh, they don't match. Now, let's try one more time. It's your turn.</p>	絵力												
<p>〈活動の手順〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアになり、一人が場所や食べ物・動作の絵カードを持つ。もう一人が感想を表す形容詞の絵カードを持つ。 • 相手に見えないように 1枚ずつカードを選んでそれぞれ発話する。2枚のカードが、A: I enjoyed hiking. B: It was exciting. のように意味が合えば、マッチした組み合わせとしてカードをよける。A: I enjoyed hiking. B: It was delicious. のように意味が合わない組み合わせの場合は、カードを元に戻す。 • 時間内にたくさんマッチさせることができたペアの勝ち。 															

8分	<p>○Let's Play</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みに行った場所とそこでしたこと、その感想についてペアで話す。 <p>S1: I went to the mountain. I enjoyed hiking. It was nice. How about you?</p> <p>S2: I went to the sea. I enjoyed fishing. It was exciting.</p> <p>S1: I see. Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアを替えて、複数回対話をする。 	<p>T: I went to the sea. I enjoyed eating ice cream. It was delicious. How about you?</p> <p>S1: ...</p> <p>T: That's nice. Now, let's talk in pairs.</p> <p>◎ I went to ~. I enjoyed ~. It was ~. を使って、夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりすることができる。〈行動観察〉</p>	
5分	<p>○Let's Read and Write</p> <p>書く文章: I enjoyed (fishing). It was (exciting).</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を聞いて繰り返し読んだ [言った] 後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。 	<p>T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the wordbox.</p>	<p>テ教</p> <p>WS</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。 	<p>振力</p>

指導案

6/8時間

- 目標**
- ・夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想が分かる。
 - ・過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所、楽しんだこと、食べた物、その感想について伝え合う。

- 準備** デジタル教材…〔デ教〕、児童用テキスト…〔テキスト〕、
絵カード(動作、食べ物、感想を表す形容詞)…〔絵力〕、ワークシート…〔WS〕、
振り返りカード…〔振力〕

時間	児童の活動 *〔 〕= 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
4分	【Let's Chant】 Summer Vacation	・一緒にチャンツを言う。	〔デ教〕
10分	【Let's Listen ③】 ・英語の音声を聞き、登場人物が夏休みの思い出について話しているのを聞いて、どこへ行ったかを考えて、誌面の絵から選ぶ。	<p>・登場人物4人が、ある場所に行っていたこと、その感想を話し、最後に Guess where I went. とクイズを出している英語の音声を聞かせる。 (クイズが出された時、画面には山、ショッピング・モール、川、遊園地、祭り、古い町並み、プールのイラストや写真が表示されている)</p> <p>T: Let's listen to the talk.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>デジタル教材の英語</p> <p>A: I went to xxx. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun. I ate curry and rice. It was delicious.</p> <p>B: I went to xxx. It was wonderful. I enjoyed shopping. It was fun. I ate pizza. It was great.</p> <p>C: I went to xxx. It was beautiful. I enjoyed fishing. It was exciting. I ate shaved ice. It was cool.</p> <p>D: I went to xxx. It was great. I enjoyed riding a roller coaster. It was exciting. I ate a hamburger. It was delicious.</p> </div> <p>◎夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所やしたことなどが分かり、内容に合う絵を選ぶことができる。(行動観察)</p>	〔デ教〕 〔テキスト〕
10分	○Let's Play カード・デスティニー・ゲーム ・ペア対抗でカード・デスティニー・ゲームをする。	T: Let's play the 'Card Destiny Game.'	〔絵力〕
	<p>〈活動の手順〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア対抗で行う。 ・動作・食べ物・感想絵カード(単語付)を分けて持ち、それぞれ机の上に並べる。 ・指導者がI went to (施設・場所名). と言うのを聞いて、それに関連する絵カードがある方が、その絵カードを出しながら、後に文を続ける。①動作、②感想、③食べ物、④感想の順。 ・早く絵カードがなくなったペアが勝ち。 <p>T: I went to ~. S1: I enjoyed ~. It was ~. I ate ~. It was ~.</p>		
10分	○Let's Talk ・夏休みの思い出に関して、「行った場所」「楽しんだこと」「食べた物」「感想」のいずれかについて、誌面を参考にペアで話す。	<p>T: Please talk about your summer vacation with your partner. You can talk about the place you went to, the food you ate, the things you enjoyed.</p> <p>◎I enjoyed -ing. や I ate ~. などを使って、夏休みに楽しんだことや食べた物について伝え合っている。(行動観察)</p>	〔テキスト〕

	<p>S1: I went to the department store. I enjoyed shopping. It was wonderful.</p> <p>S2: That's good. I went to the mountain. It was beautiful.</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今まで対話していない人と対話する。 • ペアを替えて、複数回対話をする。 		
5分	<p>○Sounds and Letters</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジングルを一通り聞く。 • 誌面にあるsで始まる単語を見て、発音する。その音で始まる単語を制限時間内に発表し合う。 • ワークシートの4線上にsの文字を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> • (時間に余裕があれば) ジングルを一通り聞かせる。 <p>T: Listen to the jingle. Let's say the jingle together. Look at the pictures in your textbook. Repeat after the jingle.</p> <ul style="list-style-type: none"> • サウンド・テニスをすることを告げる。 <p>T: Let's play 'Sound Tennis.' Think any words starting with /s/. Now, say the words within five seconds.</p> <ul style="list-style-type: none"> • まず、指導者と児童全員で行い、児童が慣れてきたらペア対抗で行わせたり、制限時間を短くしていくなどするとよい。 • ワークシートの4線上にsの文字を書くよう指示する。 <p>T: Please write the letter with the sound /s/.</p>	<p>テ教</p> <p>テキスト</p> <p>WS</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 • 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時のねらいに照らして児童を評価する。 • 挨拶をする。 	<p>振力</p>

指導案

7/8時間

目標 夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。

準備 デジタル教材…デ教、児童用テキスト…テキスト、ワークシート…WS、振り返りカード…振力

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 	
9分	<p>○Small Talk 話題：週末の思い出 (行った場所・楽しんだこと・感想)</p> <p>S1: I went to the shopping mall. I enjoyed watching a movie! It was fun. S2: That's nice. What movie? S1: Godzilla! How about you? S2: I went to Higashi Elementary School. I enjoyed baseball. It was OK.</p>	<p>※ Small Talk の指導の具体や発話例については、「授業研究の視点」◎ Small Talk (p. 84-85) 参照</p> <p>※ 左記の話題にした理由</p> <p>(1) 前時の復習のため。 (2) 話題を「夏休みの思い出」から「週末の思い出」とし、似た話題について繰り返し対話することで過去形の表現の仕方が十分に分かり、聞いたり言ったりできるようにするため。</p>	
10分	<p>【Let's Read and Watch】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について書かれた英文を読む。その後、その英文が話されている映像資料を視聴して内容を確認する。 映像資料の音声に合わせて、英文を読む。その後、映像資料の音声を消して、映像資料の英文を再度読む。 	<p>T: Let's listen to the talk.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>デジタル教材の英語</p> <p>I went to the sea. I ate fresh fish. I enjoyed swimming. It was fun.</p> </div> <p>◎夏休みの思い出について書かれた英文を読んで内容を理解し、その英文を書いた人物を選んでいる。(記述観察)</p>	デ教
5分	<p>○Let's Read and Write</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、行った場所、食べた物、したことなど、前時までワークシートに書き写した文を読む。 	<p>T: Look at your worksheet. Let's read the sentences you wrote.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>誌面に書かれている文例</p> <p>I went to the sea. It was fun. I went to the park. It was nice. I ate pizza. It was delicious. I enjoyed fishing. It was exciting.</p> </div>	WS
15分	<p>【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やす。 ペアで夏休みの思い出について伝え合う。相手を替えて繰り返す。 	<p>◎ I went to ~. I ate ~. I enjoyed -ing. It was ~. などを使って、夏休みの思い出について伝え合おうとしている。(行動観察)</p>	テキスト
5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。 	振力

目標 自分の夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書こうとする。

準備 デジタル教材…デ教、思い出アルバム用清書シート、振り返りカード…振力

時間	児童の活動 * [] = 誌面化されている活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 	
14分	<p>○Let's Read and Write</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、前時までに書き写した文を参考に、行った場所、食べた物、楽しんだこと、感想を、思い出アルバム用シートに清書する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き終わったら回収して、『6年X組夏休みの思い出アルバム』にし、後日全員に配布する。回収したシートは、教室掲示として使うこともできる。 ◎夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考にしながら書こうとしている。〈行動観察・記述観察〉 	思い出アルバム用清書シート
15分	<p>○Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者が読む思い出アルバム用シートを見て、それが誰かを考えて発表する。 ペアで自分たち以外の誰かが書いた夏休みの思い出を推測しながら読み、誰が書いたものかを考えて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が前活動で書いたアルバム用シートから2つほど選んで、それを児童に見せながら読む。それが誰のものかを尋ねる。 ペアに、そのペアの児童のものではないアルバム用シートを配り、ペアで推測しながら読んでみるように言う。それが誰のものかを考えて発表させる。 読みにくそうな児童のそばに行き、一緒に読んだり、絵やイラストを指したりしながら読むことを支援する。 	思い出アルバム用清書シート
10分	<p>【Story Time】</p> <ul style="list-style-type: none"> ここで取り扱うライムは -ish。 デジタル教材でライムの単語とそれらが含まれる文を2～3回聞く。 音声の後について言う。 ライムしている単語だけを読み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 本ユニットで学習した表現が含まれている文を読むようにし、ライムを通して子音の復習と母音への気付きを高める。 <p>T: Listen to the rhyme and repeat. Then repeat the rhyming words.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>デジタル教材の音声</p> <p>My family went to the sea this summer. I saw some seashells, star fish, and jelly fish. We had a nice dish of fish. It was delicious. A nice, delicious dish of fish.</p> </div>	デ教
5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。 	振力

授業研究の視点① 「聞くこと」の活動

新学習指導要領に示された外国語科の「聞くこと」における目標は以下の3点である。

- ア ゆっくりはっきり話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

6年生「Unit 5 My Summer Vacation」では、上記目標のウを重点として指導する。以下、本単元における「聞くこと」の言語活動の指導上の留意点について説明する。

1 新しい表現と出会う 単元の導入 [第1時]

(1) 第1時「Let's Watch and Think」の内容と解説

児童の活動	指導者の活動
<p>【Let's Listen ①】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登場人物が夏休みの思い出について話している英語を聞き、行った場所、そこでしたこと、食べた物を話の内容に合うように、誌面上の絵を線で結ぶ。 • 2回程度繰り返して聞いた後に、答えを確認する。 	<p>T: Let's listen to the talk.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>デジタル教材の英語</p> <p>A: I went to the mountain. I enjoyed camping. It was fun.</p> <p>B: I went to the zoo. I saw a panda. It was cute.</p> <p>C: I went to the sea. I enjoyed fishing. I ate <i>o-bento</i>. It was delicious.</p> </div> <p>T: I went to the sea during the summer vacation. How about you? S1: Sea. T: You went to the sea. Good. How about you? (他の児童を指名して) S2: Mountain. T: Oh, you went to the mountain... (以下、省略)</p>

この活動は、登場人物が夏休みに行った場所やそこでしたことについての英語を聞き、その内容に合う絵を選んで線で結ぶものである。英語を聞く前に、場面や話題を理解することで、そこで使われている言語材料（過去形の表現）への気付きを促したり、自分が夏休みに行った場所やそこでしたことと比較して聞くことで目的をもって聞かせたりすることができる。

(2) 指導上の留意点

映像資料の視聴の前後に指導者が英語で児童とやり取りする際は、“Let's listen to the talk.”などの指示だけではなく、意味のある内容のやり取りをしたい。また、本単元では、過去形が新しい言語材料であるため、児童の表情や反応を確認しながら、例えば、wentを多少強調したり、wentを使った文をいくつも聞かせたりして、/went/という音声印象が深く耳に残るよう意識するとよい。ただし、意味のある内容のやり取りを行うことがもっとも重要であるため、過去形の部分をことさら強調するなど、不自然な話し方にならないよう注意したい。また、音声教材の使用においては、1回目は全体をまとめて、2回目は区切って聞かせるなど、教材の使い方（聞かせ方）を工夫する。

2 繰り返し聞き、慣れ親しむ 単元の中盤 [第2時～第6時]

(1) 第2時～第6時「聞くこと」の言語活動の内容と解説

各単位時間において、後半は「Let's Play」や「Let's Talk」で仲間と対話する活動が設定されている。「夏休みに行った場所」「夏休みに行った場所とその感想」「夏休みに行った場所と食べた物、その感想」「夏休みの思い出」のように、少しずつ話題を変えて扱う言語材料を増やすことで、児童に興味を持続させながら、繰り返し「聞くこと」の言語活動に取り組むことができるようにしている。

(2) 指導上の留意点

「Let's Talk」等の活動においては、例えば対話後に、指導者から“Where did he go?”などと聞き手に質問することで、聞き取った内容を確認めるとともに、聞いて分かったことを表現する機会を設けるとよい。なお、過去形の疑問文は未習であるが、指導者が使用することはあり得る。ただし、児童が理解できていない場合は、“Where did he go?”の後に、“He went to...”と言い換えるなどの工夫をするとよい。

単元全体を通して、様々なゲームの中で英語を聞く機会が確保されている。その際、指導者が話す英語もできる限り多く聞かせたい。例えば、“Who is the winner?” “How many cards did you get?”など、本単元の言語材料以外でも、その場面に応じた英語を指導者は積極的に使用する。さらに、“It's my turn.” “I got it.”など、ゲームで児童自身が使う機会の多い言語材料は、意識して継続的に使用して聞かせることも大切である。

3 活用する 単元の終末 [第7時]

(1) 第7時「Activity」の内容と解説

第7時の「Activity」では、「来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やそう」という言語活動の目的が設定されている。本活動は「話すこと」の活動であるが、聞き手にとっては、仲間の夏休みの思い出を知る機会であり、驚きや発見が伴うコミュニケーションの時間になる。

(2) 指導上の留意点

設定されている目的のほか、「『うらやましい!』と思う仲間を見つけよう」「意外なところへ行った仲間を見つけよう」などの目的設定も考えられる。どのような目的であれ、仲間の夏休みの思い出を聞いて理解する必然性があり、より意欲的に聞くことができるよう留意したい。また、こうした目的のある活動において児童は、「いいな～」や「本当に?」などの相づちを打ちたくなるかもしれない。そのような反応の言葉は、Small Talkでも指導しているが、本活動のような、より自然なコミュニケーションの機会もまた、指導する絶好のチャンスである。大切な言葉を繰り返して相手の発話内容を確認することや、短い言葉でも感想の言葉を述べて反応しながら聞くことなどの指導を行い、話し手の児童が「気持ちよく会話できた」と実感できるようにしたい。



「聞くこと」の言語活動は、すべての言語活動の土台であり、始まりである。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、指導者自身が積極的に英語を使い、児童が豊富に英語を聞くことができるようにする。活動においては、目的設定を大切に、児童が楽しみながら、必然性をもって聞くようにする。また、相づちや感想を述べながら聞くことを、活動を通じて指導し、そのような聞き方がより豊かなコミュニケーションにつながるものであるということを実感させる。

授業研究の視点② 「話すこと」の活動

新学習指導要領に示された外国語科の「話すこと [やり取り]」における目標は以下の3点である。

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

6年生「Unit 5 My Summer Vacation」では、上記目標のイを重点として指導する。以下、本単元における「話すこと [やり取り]」の言語活動の指導上の留意点について説明する。

1 口慣らし、慣れ親しみの活動

(1) 少しずつ話題を変えて繰り返し取り組む

本単元の「Let's Play」「Let's Talk」「Activity」で児童が話す内容は〈図表1〉の通りである。このように、話題と言語材料(動詞)を替えながら“I [went/ate/enjoyed] ~. It was ~.”の文を繰り返し使用させ徐々にこれらの言語材料の定着を促す構成になっている。

これらの活動に取り組ませる際、最初から児童同士で対話をさせることは避けたい。ALTを含む複数の指導者での指導が可能であれば、まずはHRTとALTの対話を聞かせ、その後、HRTと児童、ALTと児童が対話するなど、徐々に児童を対話に加えていくようにする。その時、児童が“I go to the mountain.”などの誤りのある英語を話しても、訂正して言い直させたりはせず、“I see. You went to the mountain.”など、自然な対話を続けながら正しい英語で応答することを大切にしたい。最初から正しい英語でなければいけないと思わせると児童は話すことに抵抗を感じてしまう。

時	児童が話す内容
第1時	夏休みに行った場所
第2・3時	夏休みに行った場所とその感想
第4時	夏休みに行った場所と食べた物、その感想
第5・6時	夏休みに行った場所、楽しんだこと、食べ物とその感想
第7時	夏休みの思い出

〈図表1〉本単元で児童が話す内容

(2) チャンツやゲームを通して楽しみながら慣れ親しむ

チャンツやゲームに取り組むことは、語句や表現に慣れ親しませる上で効果的である。しかし、これらの活動は、ともすると頭を働かせることなく機械的な活動になってしまうこともある。そこで、ある程度の思考や判断を伴うゲームを活用するとよい。例えば、以下の活動はそれに相当する。

「マッチング・ゲーム」[第5時]

ペアの一人(A)が「場所」「食べ物」「したこと」の絵カードの束から1枚取って相手に見えないように持ち、もう一人(B)が感想を表す形容詞カードの束から1枚取って相手に見えないように持つ。そして、その絵カードが表す内容を発話する。A: I enjoyed fishing. B: It was fun. のように意味が通れば、2枚のカードを手元に残すことができる。A: I ate pizza. B: It was beautiful. のように意味が通らない場合は、絵カードを束に戻してやり直す。本ゲームは、意味を考える必然性があり、ある程度の思考を伴う。意味が通らない場合も、組み合わせのおかしさに児童が思わず笑ってしまうような楽しさがある。絵カードの中に、「昨日自分がしたこと」の発話を求めるカードを含めておけば、自己表現の機会にもなり得る。

2 習得した表現を活用する活動

単元の終末（第7時）の活動である【Activity】では、それまでに使用してきた言語材料を活用して夏休みの思い出を伝え合う活動を行う。グループの構成を工夫し、これまでの活動で対話していない仲間と話することができるようにし、児童が新しい情報をやり取りすることができるようにする。

また、「来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やそう」という目的を設定することにより、英語を使って達成する目的を明確にし、児童が意欲的に取り組めるようにする。これらのことは、第7時の目標にある「他者に配慮しながら伝える」ことにもつながる。聞き手に伝えたい、分かってもらいたいという気持ちから、聞き手が理解できているかを確認したり、伝わっていないかゆっくり話したり、もう一度話したりする態度を表出させやすくなる。

加えて、「一緒に行ってくれる仲間を増やす」という目的達成のためには、形容詞を使った感想を述べて、その場所や食べ物のおよさを伝える必然性も出てくる。

さらに、“Do you like fishing?” や “Do you know XX park?” と既習表現を使って、より聞き手の関心を引き出しながら実際のコミュニケーションに近い状況で取り組む活動にしたい。

3 表現の指導方法

「Let's Talk」や「Activity」で児童が自分のことを話す活動においては、児童によって伝えたい内容が広がるため、英語での言い方が分からない場合も出てくる。しかし、最初からすべてを教え込む必要はないし、そもそもそのようなことはできない。このような場合の指導例を以下に示す。

- ① 一度目の対話後に、伝えることができなかった内容はなかったかを全体に問う。
- ② ①の内容を英語で表現するために使うとよい既習表現を全員に想起させる。このことにより、言いたいことをそのまま英語で言えないと思ったときでも、あきらめるのではなく、言いたいことに近いことを、既習表現を使って表現すること（「言い換える」という方法）を少しずつ身に付けさせる。
- ③ あらかじめ、児童が伝えようとしそうな言語材料を想定して、イラスト付きカードなどを準備しておくことも考えられる。

児童が、伝えたい内容があるのに十分に伝えることができないという気持ちをもっている時に当該内容を表現するための言語材料を指導することは、当該言語材料の定着を図るという点で効果的である。なお、言語材料の使用に関して、多くの児童が同じ間違いをしている場合は、活動の途中で全体指導を行うことも有効である。



児童が伝えたいと思う内容について目的をもって話す活動にする。同じ言語材料を用いて、話題を変えながら繰り返し使用させ、定着を促す指導過程にする。慣れ親しみは、極力思考を伴うゲームを活用して楽しく行う。児童が知りたいと思っているその時に既習表現を改めて指導する。最初から正確な発話を求めず、多くの児童に共通する誤りは取り上げて全体指導を行う。

授業研究の視点③ 「読むこと」の活動

新学習指導要領に示された外国語科の「読むこと」における目標は、以下の2点である。

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

6年生「Unit 5 My Summer Vacation」では、上記目標のイを重点として指導する。以下、本単元における「読むこと」の言語活動の意図及び指導上の留意点について説明する。

1 単元及び単位時間における「読むこと」の2種類の指導

〈図表1〉は、Unit 5の各時間の「本時の目標として取り上げている領域」及び「『読むこと』も意図した言語活動」を示した表である。この表に基づき、「読むこと」の指導について2点述べる。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
本時の目標として取り上げている領域	S	L・S	S	S	S	L・S	S・R	W
「読むこと」も意図した言語活動	Let's Read and Write (第6時以外毎時間実施) →							

〈図表1〉 本単元各時の目標領域と言語活動 ※S=「話すこと」、L=「聞くこと」、R=「読むこと」、W=「書くこと」

(1) 単元を通じて音声で十分慣れ親しんだ後、単元終末で「読むこと」に取り組む

〈図表1〉の「本時の目標として取り上げている領域」を見ると分かるように、授業の目標として「読むこと」を取り上げるのは、単元終末の第7時である。第7時で児童は、夏休みの思い出について書かれている複数の英文を推測しながら読むという活動に取り組む。その活動に十分取り組むことができるよう、それまでの時間に、夏休みに訪れた場所や食べた物、楽しんだことやその感想など、自分や相手の夏休みの思い出について、話したり聞いたりする言語活動に取り組む。これにより、I went to ~./I ate ~.などの言語材料の意味を理解させ、音声にも十分慣れ親しませる計画となっている。

(2) 毎時間少しずつ「読むこと」に取り組む

本単元では、ほぼすべての単位時間の終末に「Let's Read and Write」という言語活動を位置付けている。この活動で取り扱う英文は〈図表2〉の通りである。

	英文例	内容
第1時	I went to the sea.	夏休みに行った場所
第2時	I went to the sea. It was fun.	
第3時	I went to the park. It was nice.	夏休みに行った場所とその感想
第4時	I ate pizza. It was delicious.	夏休みに(行った場所で)食べた物とその感想
第5時	I enjoyed fishing. It was exciting.	夏休みに(行った場所で)楽しんだこととその感想
第7時	(第1時~第5時で扱った英文)	夏休みに行った場所、楽しんだこと、その感想等が書かれた夏休みの思い出(日記)
第8時		

〈図表2〉 本単元各時の「Let's Read and Write」で取り扱う英文(第6時以外)

児童は、毎時間、〈図表2〉に示した英文の音声を聞きながら当該英文を読む〔言う〕。これらの英文は、それぞれの授業の「聞くこと」「話すこと」の言語活動において十分に聞いたり話したりする英文である。つまり、意味が分かり音声に慣れ親しんだ英文について、意味と音声と文字を結び付けるために音声化をするということである。なお、当該活動は、音声化の後、自分の夏休みの思い出と合うよう、当該英文の一部（例えば第1時であれば、the seaの部分）にあたる語をワードボックスから選んで書き写すことも行う。

このように、毎時間少しずつ読むことを積み重ねることで、児童が過度の負担を感じることなく「仲間が書いた夏休みの思い出日記を読む」という単元終末の言語活動に取り組めるようにする。それぞれの英文を読む際には、誌面の英文を指で押さえながら音声を聞くよう促したり、音声を繰り返し聞かせたりするなど、音声と文字を結び付けて捉えられることができるような支援をするとよい。

以上のように、読むことの指導について、(1)と(2)の2つの方法により単元が構成されている。英語をある程度読めるようになることは、英語学習への更なる動機付けになるとともに、中学校以降の英語学習への円滑な移行を促進することも期待できる。単元や学年を通じた意図的・計画的な指導に努めたい。

2 目的意識をもち、内容を推測しながら読む

第7時では、教材に登場する人物の夏休みの思い出日記を推測しながら読み、誰が書いたものかを考えるという言語活動が設定されている。漫然と英文を読ませるのではなく、何らかの目的（本時の場合、「書いた人は誰かを考える」こと）を達成するために読ませることで、「読むこと」における「思考力、判断力、表現力等」が育成されると考えられる。目的・場面、状況等に応じて、語句や表現を読むという言語活動を単元のいずれかの授業に位置付けることを大切にしたい。なお、文字を読むことだけで内容を理解することが難しいことが予想される児童には、指導者が側について、指で英文を指し示しながら声に出して英文と一緒に読むなど、個別の支援を行うようにする。

3 身近で簡単な事柄について、主体的に読む

第8時では、「仲間が書いた夏休みの思い出日記を推測しながら読み、誰が書いたものかを考えて発表する」という言語活動が設定されている。本活動では、第7時の架空の人物とは違い、クラスの仲間が実際に体験したことやそのときの気持ちについて書かれた英文を読む。「誰が書いたものかを考える」という目的をもって読ませることを大切にしている点は第7時と同様である。具体的な活動の方法は指導案に示された通り、まず全体で、その後ペアで読ませるという手順であるが、ペアで読ませた後、スクランブル活動として、その日記を書いたと思われる児童に、“You went to the sea?”と質問して確かめながら書き手を探すなど、「話すこと」の活動につなげることも考えられる。

「読むこと」の言語活動で読ませる英語は、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに十分留意する。児童が主体的に読もうとする「学びに向かう力、人間性等」を育成するためにも、自分自身や仲間などの身近で簡単な事柄について、目的をもって推測しながら読む言語活動を設定するとともに、そのような活動に過度の負担を感じずに取り組むことができるよう、単元を通じて、毎時間、スモールステップを踏んだ指導を行う。

授業研究の視点④ 「書くこと」の活動

新学習指導要領に示された外国語科の「書くこと」における目標は、以下の2点である。

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

6年生「Unit 5 My Summer Vacation」では、上記目標のイを重点として指導する。以下、本單元における「書くこと」の言語活動の意図及び指導上の留意点について説明する。

1 音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書く

「授業研究の視点③『読むこと』の活動」(p.80-81)と同様、「書くこと」においても、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり書いたりする、という順序性を踏まえることは必須である。この順序性が重要であることは、單元においても単位時間においても共通しているが、ここでは、第1時の学習過程<図表1>を例に、単位時間において、具体的にどのような過程で授業が構成されているかについて説明する。

「Small Talk」に続いて取り組むのは、「聞くこと」の言語活動【Let's Listen ①】である。この活動では、映像資料を視聴し、登場人物が夏休みに行ったところや、したことなどを聞き、登場人物の絵と、場所、食べ物、動作等を線で結ぶ活動等に取り組む。次に、施設や場所、食べ物等を表す語句を使った「ポインティング・ゲーム」を行った後、「話すこと」の言語活動「Let's Play」に取り組む。この活動では、前述の「聞くこと」で慣れ親しんだ語句を用いて、自分が実際に行った場所をペアで伝え合う。そして、本時の終末に、「話すこと」の活動で使った I went to ~. という基本的な表現について、まず音声を聞きながら読み[言い]、その後、「~」の部分に入る語句をワードボックスから選んで書き写すという「書くこと」の活動に至る。このように、基本的にはいずれの授業も、「聞くこと」→「話すこと」→「読むこと」→「書くこと」の順序性を踏まえて構成されている。

「音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書く」ようにするために、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の順序性を基本的に踏まえた丁寧な指導を大切にする。この指導により、児童に「書きたい」「自分にもできそうだ」という意欲をもたせることにもつながる。

2 単元を通じて、毎時間、少しずつ書く

「書くこと」においても、「授業研究の視点③『読むこと』の活動」で示したことと同様のステップを踏んで単元計画が構成されている。本單元でほぼ毎時間の「Let's Read and Write」で書き写すことが想定されている語句及び基本的な表現は<図表2>に示す通りである。

児童の活動	
1	○ Small Talk
2	【Let's Listen ①】
3	【Let's Play】 ポインティング・ゲーム
4	○ Let's Play 夏休みに行った場所をペアで伝え合う。
5	○ Let's Read and Write

<図表1> 本單元 第1時の学習過程 (簡易版)

〈図表 2〉各時の書き写すことが想定されている語句及び表現例

	英文例	書き写す語句・基本的な表現例
第1時	(I went to) the sea.	the mountain, the river, Tokyo 等の場所・地名
第2時	(I went to) the sea. (It was) fun.	(第1時の語句に加えて)
第3時	(I went to) the park. (It was) nice.	exciting, good, nice, great 等の形容詞
第4時	(I ate) pizza. (It was) delicious.	seafood 等の名詞、delicious, sweet 等の形容詞
第5時	(I enjoyed) fishing. (It was) exciting.	swimming 等のしたこと、fun 等の感想
第8時	I went to the sea. It was exciting. I enjoyed fishing. It was nice.	前時までに空所補充の形式で書き写してきた英文を見ながら書き写し、日記に清書する

※「英文例」にある（ ）内の英文は、教材誌面に印刷されている

児童は、各単位時間に音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句の中から、the sea, the mountain 等、自分自身の夏休みの思い出と合うものを選び、誌面の I went to (). などの英文の空欄を補充する形で書き写す。第8時では、第5時までに読んだり[言ったり]、書いたりしてきた表現を見ながら書き写し、自分の「夏休みの思い出日記」を清書する。

以上のように、単元を通じて毎時間少しずつ「書くこと」の言語活動に取り組むことで、過度の負担を感じることなく自分に関する簡単な事柄について書くことができるようにしている。

3 目的意識をもって書く

「授業研究の視点③『読むこと』の活動」の 2 でも述べたように、「思考力、判断力、表現力等」が育成され、より一層言語（英語）の定着が期待できるのは、学習者が「自分が伝えたいことを表現するためには、この言葉が使える」などと、必要性を感じながら当該言語材料を使用する時である。そこで本単元では、単元の終末に『夏休みの思い出日記』を作成した上で、互いの日記を読んで誰が書いたものかを考えて発表する」という言語活動を設定している。なお、単元の初めに、単元終末に本活動を行うことに触れ、指導者自身の「夏休みの思い出日記」を提示するなど、児童が継続して目的意識をもちながら学習に取り組めるようにするための導入の工夫を行うとよい。

4 日本語と外国語(英語)の違いに気付き、語順を意識し語と語の区切りに注意して書く

日本語と外国語（英語）の違いへの気付きを図ることについて、ある程度明示的な指導を行うことも考えられる。例えば、「夏休みの思い出日記」を清書する前に、日本語で書かれた文と英語で書かれた文を比べて気付くことはないか問いかけてみるなどである。指導者は、児童の気付きを整理しながら、語順に意識させるとともに、英文を書くときにどんなことに気を付けるとよいかを問いかけるなどして、符号の使い方、語と語の区切りに注意して書くことなどを指導する。

「書くこと」の言語活動で書かせる英語は、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに十分留意する。また、児童が過度の負担を感じることをないよう、段階を踏んで指導する。「書くこと」の目的をもって取り組める言語活動を設定するとともに、英語の語順への意識を高め、語と語の区切り等に注意して英文を書くことができるよう指導する。

第6学年では身近な話題について、主に児童同士がやり取りする活動「Small Talk」が位置付けられている。これは、好きな食べ物やスポーツ、その理由、行事や長期休暇の思い出など、児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、その定着を図るために行うものである。授業の初めに相手を替えて1～2分程度の対話を2回程度行う対話的な言語活動である。(Small Talkの実例については、実習編 3 「Small Talk (p.130-134)」を参照)

1 Small Talkを行う意図

Small Talkを行う主な目的は、(1)既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること、(2)対話の続け方を指導すること、の2点である。以下、それぞれの詳細について説明する。

(1) 既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る

これまでの外国語活動においては、児童が単元の新出言語材料に慣れ親しむことに重点が置かれていた一方で、複数単元を通じた系統性が弱く、言語材料の使用が単元ごとで完結している場合が少なくなかった。新学習指導要領に基づく外国語科の指導においては、言語材料の定着にも重点が置かれている。したがって、児童が、現在学習している単元及び当該単元より前の単元で学習した言語材料を繰り返し使用できる機会を保障し、当該言語材料の一層の定着を目指すことが求められる。

(2) 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

「話すこと」によるコミュニケーションを行う際に欠かせないことが「対話を続けるための基本的な表現」である。我々が母語で対話をする際にも、相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認めたり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることで対話は続くものである。小学校高学年では、「対話を続けるための基本的な表現」として、例えば〈図表1〉の6点を指導することが考えられる。

対話の開始	対話の始めの挨拶 Hello./How are you?/I'm good. How are you? など
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること 相手：I went to Tokyo. 自分：(You went to) Tokyo. など
一言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること That's good./That's nice./Really?/That sounds good. など
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと Pardon?/Once more, please. など
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること 相手：I like fruits. 自分：What fruits do you like? など
対話の終了	対話の終わりの挨拶 Nice talking to you./You, too. など

〈図表1〉対話を続けるための基本的な表現例

2 指導例

(1) 導入 ～指導者と児童が表現内容の授受を楽しみながら行う～

本単元 (Unit 5 My Summer Vacation) では、第2時までには、夏休みに訪れた場所を伝える表現 I went to ～. や、感想を伝える表現 It was fun. などを使用して言語活動に取り組んでいる。そこで第3時では、授業の始めにそれらの表現を用いて夏休みの思い出について指導者が児童とやり取りする。指導者が実際に訪れた場所やその感想等を伝え、児童とやり取りしながら話題を導入する。

T: Did you enjoy your summer vacation?
I went to Tokyo. It was fun!
How about you, S1?

S1: Amusement park. Fun!

T: Oh, you went to the amusement park, and it was fun. That's nice. How about you, S2?

S2: I went to Okinawa. It was exciting!

T: You went to Okinawa. That's good.
OK, please talk about your summer vacation.

〈図表2〉 Small Talk 導入例 [第3時]

(2) 1回目の対話の後で指導すること

① 既習表現を想起できるようにする

児童同士が1回目の対話を行った後、児童が伝えたくても英語で表現できなかったことはないかを確認する。その際、児童が前時までには学習した言語材料で表現できる内容について質問した場合、指導者はすぐに答えるのではなく、学級全体に問う。それが、質問者以外の児童にも既習表現を想起させ、2回目の対話での使用を促す。未習の言語材料については、平易なものは指導者が教え、難易度の高いものは日本語を用いることとする。

T: Do you have any questions?

S3: 「海に行った」って言いたい。

T: 「海に行った」って、なんて言えばいいかな。

S4: Sea!

T: そうだね。I went to the sea. と言えばいいね。

S5: 「わくわくした」は?

S6: excitingだよ!

T: そうだね。It was exciting! と言えば伝わるね。

〈図表3〉 Small Talk 指導例 (1回目の対話後) [第3時]

② 自身の対話を振り返るようにする

Small Talk の導入期には、対話後「相手の言ったことを繰り返して言えたか」「一言感想を言うことができたか」などを確認し、「対話を続けるための基本的な表現」の使用に意識を向けさせることも考えられる。また、児童が“Sea.”などと単語のみで答えたり不完全な英文で対話したりしている場合、自然なやり取りを続けながら、“You went to the sea.”などと正しい英文で応答し、児童の気付きを促す。



Small Talk を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする。そのような表現内容の授受を楽しむ中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。

授業研究の視点⑥ 他教科等と連携した活動

1 他教科等と連携した活動のよさ

(1) 発達の段階に応じた、興味ある内容

他教科等で学習したことは、児童の発達の段階に応じた内容であり、児童の知的好奇心に沿ったものとなることが多い。したがって、「聞いて知りたい」「話して教えてあげたい」という児童の意欲を高めることが期待できる。また、当該内容について、さらに自分が興味をもって調べたりした内容を付加するなど、伝え合う内容が深まったり広がったりする可能性が高まる。

例えば、5年生「Unit 6 I want to go to Italy. (行ってみたい国や地域)」がそれである。5年生4月の社会科の授業は、地球儀を扱い、世界には6つの大陸があることやその中には様々な国があることを指導することが多いであろう。これまで、日本の各地域のことを扱ってきた学習内容から、世界を意識することになる。また、総合的な学習の時間で国際理解を扱う学校であれば、さらに視野が広がる。

(2) 「すでに（他教科等で）学習しているからその内容については知っている」という安心感

新しい題材で単元を始める時に、児童が他教科等ですでに学習して知っている内容であれば、安心して英語そのものに注意を向けやすくなる。その英語がさらに、新しい言語材料でも、話されている内容（既知の内容）と関連付けて当該言語材料の意味を予測することができる。例えば、青森県の地図を見せながら、“I like apples. So I want to go to Aomori.”と指導者が発話すれば、青森県はリンゴで有名なことを知っている児童たちは、「先生はリンゴが好き。だから青森県に行きたがっている」と新しい表現の意味を推測しやすくなる。

2 指導上の留意点

(1) 既習内容を導入で活用

先に述べたように、既習内容への安心感を生かし、導入では既習内容を扱う。例えば、5年生 Unit 6 の終末では外国の食べ物や建物等を扱い、行きたい国を選ぶという活動を行うが、単元の導入で新しい言語材料を導入する際は、児童がこれまでに社会科で学習してきた日本や都道府県を題材にするなどの工夫が考えられる。

(2) 難しくなりすぎないように配慮

他教科等での学習内容を題材に生かした場合、そのことについての知識を多くもっている児童は、伝えたい内容が多岐にわたったり専門的になったりし、それを表現するための言語材料が難しくなる場合がある。例えば、“You can see the Taj Mahal in India.”と自分だけが知っている情報をそのまま伝えてコミュニケーションが成立しないといった恐れがある。そのため、コミュニケーションを補助する写真等を活用させたり、全体で共有できるワードバンクを準備したりするなどが必要である。

他教科等と連携した活動を行うと、児童の知的好奇心に応じた内容についてコミュニケーションすることができる。伝え合う内容は既習であるという安心感をもたせやすい。一方で、複雑化しがちな言語材料への指導・援助は適切に行いたい。

評価規準、評価方法など、新学習指導要領の下での学習評価については、平成28年12月の中教審答申の指摘(※)を踏まえ、今後の国における具体的な検討を受けて、追記・修正をする予定である。なお、平成30・31年度の移行期間における学習評価については、平成29年度中に通知される予定である。

※「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)(平成28年12月21日中央教育審議会)の主な指摘

- 観点別評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理する。
- これらの(3つの)観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要。
- 学習評価の工夫改善に関する参考資料についても、詳細な基準ではなく、資質・能力を基に再整理された学習指導要領を手掛かりに、教員が評価規準を作成し見取っていくために必要な手順を示すものとなることが望ましい。そうした参考資料の中で、各教科等における学びの過程と評価の場面との関係性も明確にできるよう工夫することや、複数の観点を一体的に見取することも考えられることなどが示されることが求められる。
- 指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。

授業研究の視点⑧ 「主体的・対話的で深い学び」の在り方

学習指導要領によると、「目的・場面・状況等に応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考・判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されている。(理論編 2 p.156-157 参照)

そこで、Unit 5 における、表現内容と言語材料の両者を思考・判断する「話すこと [やり取り]」の言語活動(第7時の「Activity」)を取り上げ、指導における大切なことを示す。

1 「主体的」であるか

誰かになりきって何かを話したり、架空のことを話したりさせるだけではなく、本当の自分自身の考えや気持ちを表現させることが非常に大切である。自分が海で食べた新鮮な魚がとてもおいしかったということを伝えたくて“I ate fresh fish. It was delicious.”と言っているのと、本当は海に行っておらず魚も食べていないため、そのおいしさを実感していないのに、そのようなことをしたことにして、“I ate fresh fish. It was delicious.”と言っているのでは、取組に大きな違いがでる。自分が本当に感じたことや経験したことを伝えたいと思って言語材料を使用させることを大切にしたい。

2 「対話的」であるか

「対話的」な活動にするために分かりやすい方法として、ペアでの対話活動を取り入れることがある。しかし、その対話活動が外形的なものとならないようにしなければいけない。そのために留意することとして、①対話する目的があること、②対話する(伝え合う)内容が互いに未知であることが挙げられる。本活動は、①「一緒に過ごしてみたいな」と相手に思ってもらおうという目的がある、②互いがどのような夏休みを過ごしたかを知らない、という点で「対話的」であるといえる。このような「対話的」な活動に取り組めるようにすることが、思考を広げ深める対話的な学びの実現に資すると考える。

3 「深い学び」であるか

本活動で大切にしていることは、何を伝えると「一緒に過ごしてみたいな」と相手に思ってもらえるか、そのためにどの言語材料を使うとよいかを児童自身に考えさせる(選ばせる)ことである。

I went to ~./I enjoyed ~./It was ~.などの言語材料を、「意味」が分かった上で、夏休みの思い出を伝え合うという「場面」の中で、その言語材料を使う「目的」(自分の夏休みの思い出の楽しさを相手に知ってもらおうことなどの目的)をもった上で使用させる。そのことが、「深い学び」の実現には欠かせない。つまり、児童が、「意味」と「場面」、「目的」を結び付けながら言語材料を使用して言語活動に取り組んでいるという状態にすることが大切である。

「主体的・対話的で深い学び」を実現させるには、①自分自身のことを伝え合わせること、②伝え合う目的があること、③伝え合う内容が互いにとって未知であること、④①~③の条件を具備した内容を伝え合う中で、言語材料の「意味」と「(当該言語材料が使われる)場面」と「(当該言語材料を使用する)目的」を結び付けることができるようにすることが大切である。



實踐編



1

題材選定の仕方・教材の在り方

外国語活動・外国語科の授業を行うに当たって、適切な題材の選定の仕方や教材の在り方について知ることは大変重要である。本節では、題材を選ぶ際に留意することや具体的な例、教材作成に当たっての基本的な在り方について述べる。

1 題材選定の留意点

言語活動で扱う題材は、以下のような観点に留意して選定を行う。

① 児童の興味・関心

児童が日常生活の中で見たり聞いたりして体験している様々な出来事や話題の中から、児童が興味・関心のあるものを取り扱うようにする。コミュニケーションへの積極的な態度を育てる上で大切な観点である。

② 他教科等の学習や学校行事等で扱う内容との関連

国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等での既習の学習内容や学習活動との関連をもたせることで、児童の知的好奇心を刺激し、活動への意欲を高めることができる。また、各学校における特色ある学校行事等と関連付けることで、学校生活での学習及び体験そのものが、コミュニケーションの内容となるため、自分の思いがより表れたコミュニケーション活動を行うことができる。

③ 国際理解および自国理解

我が国の文化や、外国語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものであること。特に、外国語や外国の文化を扱う際には、様々な言語に触れたり、英語を使用している人々の日常生活等を取り上げたりするとともに、英語以外の言語を使う人々の日常生活も取り上げる等、幅広い視野から題材を取り扱い、偏りがないう配慮する。

題材選定に当たって、児童が今、何に興味・関心をもっているのか、どんなもの・ことを取り上げることが児童のコミュニケーションへの動機付けを高めることにつながるのかを見極めるには、普段一緒に過ごしている学級担任の児童理解の力が大きく関わってくる。

2 題材の具体例

外国語活動及び外国語科における題材例と活動内容例を以下に示す。

	題材	活動内容例	教科等、学校行事等との関連
外国語活動	好きなもの	自分の好きなものやそのイラスト・写真などを見せながら自分の好きなものについて尋ねたり答えたりする。	特別活動
	遊び	動作を交えて自分が好きな遊びについて尋ねたり誘ったり、またそれに応じたり断ったりする。	特別活動
外国語科	世界の国	海外旅行会社の人と客という設定で、海外旅行を紹介して勧めたり、行きたい国を理由を含めて選んだりする。	社会
	思い出	6年間の小学校生活を振り返り、思い出に残る行事について伝え合う。	学校行事

3 教材の在り方

(1) 教材作成及び教材の選定の留意点

現行の外国語活動では、国より作成された共通教材として『Hi, friends!』が希望する学校に配布され、地域、学校、学級の実態に合わせて工夫して活用されている。本教材は、学習指導要領に沿った教材であり、どのような内容をどのように指導するかまで包括した教材である。平成29年度中に、文部科学省より配布される新教材も、中学年における外国語活動の目標、内容の具現化を図るものである。

また、配布される教材や教科書以外にも、指導の充実を図るために、指導者自身が教材・教具を作成することが必要となってくる。大切なことは、外国語活動・外国語科の目標を踏まえたものであるかどうかを検討することである。目標達成のために、どのような教材・教具が必要であるかをまず考えることが重要である。

市販の教材を選定する際には、各学年の目標、内容に合ったもの、児童の興味・関心に即した内容のもの、学級、学校の実態に合ったものであるかどうかを考慮することが大切である。

特に、高学年の教材選定においては、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を育成するためのものであることに留意する必要がある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つの領域別の目標と内容との関係について、単元の内容や時間のまとまりごとに明確に示すことが大切である。また、言語の使用場面や言語の働きを切り離して指導するのではなく、併せて指導できる教材を選定することが求められる。

(2) 外国語活動・外国語科で使う教具例

地図、世界地図、地球儀、ウォール・チャート、パネル、広告、英語ポスター、絵カード、パンフレット、様々な具体物、児童たちの作品、キャラクター人形、パペット、写真、副読本、絵本、ワークシート、かるた等のカード、インタビューカード、色カード、おはじき、チップ、世界のコイン、CD、DVD、ビデオ、コンピュータ（インターネット）等

こうした教材・教具は、目的や場面、状況ごとに整理し、校内で共有することが有益である。同学年だけでなく、複数学年でも使用できるものが多いからである。

このほかにも、外国語活動・外国語科に利用できる教室を整備することも有効である。ポスターや写真、絵本、授業で児童が作ったもの等で教室を飾り、雰囲気を作ることで児童の外国語学習への意欲を高めることにつながる。またICTを有効活用し、ALT等の協力を得た授業内容の復習ビデオを作成することで、児童の個人差が大きい学級では、空いている時間に児童に見せるなど、個人への対応も可能である。



題材の選定や教材作成において重要なことは、各学年の目標や内容に資するものであるかどうかという点であろう。児童が生き生きと活動に臨んでいるのは、各学校や学級の実態に合わせたオリジナル教材を活用した場面であることが多い。取り扱う題材や教材の工夫を通して、外国語活動・外国語科の指導の充実をさらに図っていききたい。

外国語活動・外国語科の目標を踏まえ、児童の興味・関心や学級、学校の実態に合わせた活動や内容を考えて年間指導計画を立案していくことが大事である。本編では、年間指導計画立案に際する基本的な在り方について述べる。

1 年間指導計画の構成要素

年間指導計画の在り方については様々な考え方があるが、ここでは以下のような要素から構成されているものとする。

- ① 1年間で児童に付けさせたい力（目標）
- ② 具体的な指導内容
- ③ 主な言語活動
- ④ 評価の観点とその評価方法

年間指導計画を立てる際には、上記の構成要素を支えるものとして、教師が外国語活動・外国語科のねらいや趣旨を十分理解していなければならない。

2 外国語学習に関する指導計画（シラバス）の類型

次に示すのは、外国語学習に関するシラバスの大まかな類型である。

(1) 構造シラバス

「文法シラバス」と呼ばれることもあり、文法構造（文法事項や文型）を、その難易度や使用頻度等、適当と思われる順に配列し、学習内容を決定するものである。例えば、多くの中学校英語教科書のように be 動詞の肯定文を学習し、次に、be 動詞の否定文・疑問文を学習する構成となっているものが挙げられる。

(2) 場面シラバス

日常生活の一部を場面として取り出し、その場面で使われる言語を学習内容とするものである。文法構造の難易に関係なく、それぞれの場面で起こると考えられる典型的な言葉が選択される。例えば、「朝、起きる」という場面では、“Good morning, Junko.” “Good morning, Mom.” “You should eat your breakfast quickly.” “I’m so sleepy.” “What time did you go to bed last night?” “About 11:00.” というような会話を学習することになり、構造シラバスと異なり、1つの場面に命令形や現在形、過去形等が同時に出てくることになる。実際の生活から場面が選択されているため、会話が自然で実用的ではあるが、同じ場面でも人によって会話が異なることを考えると、すべての場合を取り上げるには限界がある。また、場面の選択と配列とは、児童の学習動機に合わせて行う方が学習の効果があると考えられている。平成10年度改訂の中学校学習指導要領外国語編には、この考えが取り入れられている。

(3) 機能シラバス

人がコミュニケーションを図ろうとするとき、そこには目的がある。例えば、「おはよう」、「こんにちは」、「さようなら」等は、「挨拶をする」という目的（＝言葉の働き）の表現例である。私たちは、「挨拶をする」という目的を果たす際、場・時・相手との関係性を考えた上で、具体的な表現を選んで発話している。

このシラバスでは、この言語機能を適切と思われる順で配列し、学習内容を決定する。また、このシラバスの考え方も平成10年度改訂の中学校学習指導要領外国語編に取り入れられている。

(4) 技能シラバス

外国語の四領域である「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の下位技能である「強勢・イントネーション・区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え、正しく聞き取ること」、「文字や符号を識別し、正しく読むこと」等を、適切な順で配列し、学習内容を決定する。従来から、中学校学習指導要領外国語編では、この考え方を取り入れている。

(5) タスクシラバス

児童に、ある課題やタスク(作業)を与え、児童が外国語を使ってそれを解決、遂行するものである。例えば、「クラスの友達と情報を集め、学校周辺地図を作成する」等が考えられる。タスクは、その到達点が明確で、複数の人との間で情報交換があり、児童の興味・関心に合った題材で、発達段階に合ったものでなければならない。

(6) 内容シラバス

児童が他教科等で学習する内容等を取り上げて外国語で学習するものである。例えば、社会科で地域のことを学ばば、その地域のことを取り上げたり、算数科で計算を学ばば、それを取り上げたり、また、それらを混合したものを学習することである。このように他教科等で扱った学習内容や題材を選択し、適切な順に配列して学習内容を決定することも可能である。

(7) 話題シラバス

児童にとって興味・関心のある話題を取り上げ、学習する。例えば、「動物」「食べ物」「私の将来の夢」という話題を取り上げることになる。場面シラバスと同様、1つの話題に、様々な表現が扱われる。

以上、代表的なシラバスを挙げたが、実際にはどれか1つに絞るのではなく、それぞれの特徴を取り入れた混在型のシラバスで年間指導計画が立てられることが多い。小学校における外国語学習においても、これらのシラバスの考え方を念頭に置き、年間指導計画を作成することが大切である。

3 外国語活動・外国語科のねらいとシラバス類型

小学校における外国語学習では、児童に英語でのコミュニケーションを体験させる必要がある。コミュニケーションについては様々な考え方があるが、人と人が行うコミュニケーションでは、情報のやり取りが行われ、受け手がそれにより何らかの影響を受けることと考えると、次のような構成要素が考えられる。

- ① コミュニケーションを図る人
- ② コミュニケーションを図る人同士の関係
- ③ 音・文字・身振り手振り等、コミュニケーションの媒体
- ④ コミュニケーションで扱う語句や表現
- ⑤ コミュニケーションが図られる場
- ⑥ コミュニケーションが図られる時
- ⑦ コミュニケーションの話題・題材
- ⑧ コミュニケーションが図られる目的 等

これらの要素の中のどれに重きを置いて学習するかによって、「2 外国語学習に関する指導計画(シラバス)の類型」に示したシラバスが変わってくる。これらのどれに重きを置いた年間指導計画が、

あるいはどのように混合したものが望ましいのかについては様々な考え方がある。しかしながら、小学校における外国語活動、外国語科のねらい・趣旨から、場面シラバス・機能シラバス・タスクシラバス・内容シラバス・話題シラバスの混在型が望ましいと考えられる。

混在型とは、「道案内」や「クイズ大会」のような場面を中心に単元が組まれていたり、「数」や「外来語」のような話題・題材を中心に組んだりした単元があるなどの様々なシラバスから構成されているものであり、児童にとっても、学習に飽きることなく集中できるように考えられているものである。

4 年間指導計画作成上の留意点

年間指導計画作成上で留意すべき点について挙げる。

- ① 年間指導計画作成に当たっては、外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校を通じた目標の一貫性、及び指導内容等の系統性に留意することが重要である。
- ② コミュニケーションの場面（挨拶、買い物、地域の行事等）やコミュニケーションの働き（気持ちを伝える、事実・情報を伝える等）を参考に、活動を整理、配列し年間指導計画作成する。
- ③ 外国語学習の学びの特徴の1つとして、繰り返し何度も語彙や表現に触れることが効果的であることが挙げられる。新出の語彙や表現ばかり取り扱うのではなく、活動内容を変化させたり、表現を組み合わせたり増やしたりしながら、後出の他単元や次の学年における意味ある文脈の中で、繰り返し出合わせることができるような年間を通した単元配列の工夫を行う。
- ④ 学校や地域の特徴ある学校行事や他教科等の学習内容等と関連付けた単元等においては、指導時期などを考慮しながら、単元配列を行う。
- ⑤ 年間35単位時間増となる時数を確保するため、短時間学習を含めた弾力的な授業時間の設定が求められている。短時間学習については、授業時数内外で様々な教科も含めた取組が行われており、すべての小学校において、外国語に特化した短時間学習を一律に行うこととするのは困難である。そこで、年間70単位時間における一定の短時間学習の在り方を横並びで求めるのではなく、ある場合には45分授業を60分授業の扱いにして、その中の15分を短時間学習として位置付けることや、また別の場合には外国語の短時間学習を2週間に3回程度実施すること、さらに、別の場合には、夏季、冬季の長期休業期間において言語活動を行うことなど、地域や学校間の差に配慮しつつ、地域や各学校の実情に応じて幅のある弾力的な授業時間の設定や時間割編成をすることが必要である。



完成した年間指導計画は、学校行事や他教科等の学習内容また児童の発達段階や興味・関心に応じて、見直しや修正が求められる。また、指導時数増加に伴い、外国語活動・外国語科だけでなく、小学校の教育課程全体を見通したカリキュラム・マネジメントが必要である。児童に必要な資質・能力の育成のため、教員がその必要性を理解し、学校全体で効果的な年間指導計画等の在り方を探ることが大切である。

年間指導計画に位置付けた単元を指導するに当たって、学習指導案の作成は、授業を構想する上でとても大切な役割をもつ。単元の目標や評価規準、目標達成のための具体的な支援、指導上の留意点など、児童の姿を具体的にイメージしながら作成していく。学習指導案を作成することで、何のために、どんな活動を、どのような方法、順序で指導していくかを明確にした上で指導することができる。

1 学習指導案の書き方

学習指導案の形式は様々であり、1つに統一されたものがあるわけではなく、各学校等で特色ある形式が使用されている。ここでは、基本的な学習指導案の様式をもとに、書き方について示す。

(1) 単元目標

第3学年○組 外国語活動学習指導案（フォーマット例）

指導者 HRT
ART

1 単元名 Unit 4 I like blue. すきなものをつたえよう

2 指導観 ①

○児童観

本学級の児童は、
※学級の児童の実態、これまでの学習経験、児童に付けさせたい単元のねらい等

○教材観

本題材は、
※題材や教材の内容や価値等

○指導観

本単元の指導に当たっては、
※具体的な指導の方法

3 単元の指導目標 ②

- 多様な考え方があることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語の違いに気付き、色の言い方や、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（知識及び技能）
- 自分の好みを伝え合う。（思考力、判断力、表現力等）
- 相手に伝わるよう工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

4 言語材料 ③

○表現（児童の発話）

I like (blue). I don't like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do.

○語彙（児童が使う語彙）

色 (blue, red, green, yellow, pink, black, white, orange, purple)

スポーツ (soccer, baseball, basketball, dodgeball, swimming)

1

本学級の児童は、～で、～な経験をしている。外国語活動に対する意識は～。（児童観）

本単元では、～な題材を設定し、～な教材を使って指導にあたる。（教材観）

第1時では、～活動をし、～させる。第2時では～。本時の指導に当たっては、～をし、～するようにする。（指導観）

2

育成を目指す資質・能力の3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って目標を書く。

3

本単元で扱う言語材料を、表現（児童の発話）と語彙（児童が使う語彙）に分けて書く。

5 該当する学習指導要領における領域別目標 ④

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、・・・・・・・・・・ 表現の意味が分かるようにする。
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び・・・・・・ 質問に答えたりするようにする。

④ 学習指導要領の中から、本単元に該当する領域別目標を記載する。

⑤ 観点ごとに、指導者が授業の中で求める児童の具体的な姿(目標が達成された姿)を書く。

6 単元の評価規準 ⑤

- ゆっくりはっきりと話された際に、・・・・・・・・・・(聞くこと)
- 友達や先生のサポートで、自分の好きなものについて・・・・(話すこと [やり取り])

(2) 単元指導計画 (4 時間)

⑥ 1 単位時間ごとに目標(◆)と主な活動(【 】、○)を書く。

時	⑥ 目標(◆)と主な活動(【 】、○)	◎評価(方法)
1	<p>◆多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ好きなものを表す表現を知る。</p> <p>【Let's Sing】 The Rainbow Song ○自分のにじをかこう「My Rainbow」 • 誌面に好きな色を塗り、自分の虹を完成させる。</p> <p>【Let's Watch and Think】 • 映像資料を試聴し、世界の子供たちの描く虹の絵を見て、それぞれの違いに気付く。</p> <p>○シャッフル・ゲーム ○好きな色を教えて</p> <p>【Let's Listen ①】 • 誰が何色が好きかを聞いて線で結ぶ。</p> <p>【Let's Chant ①】 I like blue. (色編) ○ Goodbye Song</p>	<p>◎多様な考え方があることに気付く。〈行動観察、振り返りカード分析〉</p> <p>◎色を聞いたり言ったりしている。〈行動観察、振り返りカード点検〉</p>
4	<p>◆相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。</p> <p>【Let's Sing】 The Rainbow Song 【Let's Chant】 I like blue. (色) I like soccer. (スポーツ)</p> <p>【Activity】「自己紹介をしよう」(シート作成・自己紹介) • 自己紹介シートを作成し、自分の好みを交えて自己紹介をし合う。</p> <p>○ Goodbye Song</p>	<p>◎相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介している。〈行動観察、ワークシート点検、振り返りカード点検〉</p>

⑦ 行動観察だけでは見取り切れないため、振り返りカードに記載された児童の気付きを分析し、評価記録の対象とする。

⑧ 本時評価する活動の右側に、評価について具体的に書く。

⑨ 評価方法は、行動観察、発表観察、振り返りカード分析・点検、ワークシート点検等。

(3) 本時の指導案

○本時の目標 10

- 多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ、好きなものを表す表現を知る。

○準備物 デジタル教材、児童用テキスト、教師用絵カード(色)、色鉛筆・・・

○本時の展開(1/4時間) ※(本時/総指導時間)

時間	児童の活動	指導者(T)の活動と使用英語例	準備物
2分 ⋮	挨拶をする。 ⋮	•全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。 ⋮	⋮
5分	【Let's Watch and Think】 •映像資料で、世界の子供たちが虹を描く様子などを視聴し、自分たちの作品や日本で見る虹との違いに気付く。	•海外ではどんな虹が見えるかなど、児童の興味・関心を高めながら映像資料の視聴につなげ、自分たちの作品との違いや共通点に気付くよう言葉かけをする。 T: Please watch the video. 11 What colors can you see in the rainbow? 12 ◎多様な考え方があることに気付いている。〈行動観察・振り返りカード分析〉	
6分 ⋮	○シャッフル・ゲーム •指導者と色を確認する。 •指導者が指したカードが何色か当てる。 13 〈活動の手順〉 •児童と色を言いながら、順に色カードを裏返す。 •児童に入れ替えた順が分かるように2、3回入れ替える。 •1枚のカードを指し、What color?と児童に尋ねる。…	•シャッフル・ゲームをすることを告げる。児童が描いた虹の色の中から4枚程度を黒板に張りながら、カードの色を児童と確認する。 T: Let's play the Shuffle Game. Look at the board.	
5分	•本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	•児童の英語を使おうとする態度についてよかったところを称賛する。	振り返りカード
2分	○Goodbye Song •挨拶をする。	•児童と一緒に歌う。 •挨拶をする。	デジタル教材

10

本時でねらう児童の姿を評価の観点に即して書く。

11

指導者の使用英語、児童同士の会話は、表現例を示す。

12

評価する活動の欄に評価を◎で具体的に示す。行動観察だけでは表出しない内省の部分は、「振り返りシート」等の児童の記述を分析し評価する。

13

ゲーム等の活動は、活動の仕方や手順を分かりやすく書く。

外国語活動・外国語科の学習指導案を作成した経験のある先生は、まだまだ少ないであろう。実際に学級の児童の実態をイメージしながら学習指導案を作成していく中で、単元のゴール像をどのように設定するか、また目標達成のための活動をどう配列し、どのような手立てを講じるか考えることを通して、授業を構成する力は高まっていく。

4

「聞くこと」についての指導の在り方

1 目的をもって聞く場面を設定する

例えば、動物に関する絵本や歌、チャンツ等を聞く際に、「どんな動物が出てくるか、よく聞いてみましょう」や「どんな順番で出てくるかを耳を澄まして聞いてみましょう」などの課題を設定した上で、目的をもって聞かせることが大切である。また、ゲームや活動の説明を英語で行い、聞かなければ活動ができないという「英語を聞く必然性」をもたせるなど、目的をもって聞くような場面を設定することも大切である。



2 繰り返し聞かせ、内容を推測させる

目的をもって聞かせるためには、話に「内容」がある必要がある。そのためには、児童が興味をもつ題材のもと、ALT等を活用しながら、「本物」かつ「中身のある」内容を聞かせることである。児童が十分に理解できていない場合には、繰り返し聞かせたり、ジェスチャーや具体物を使って、推測させたりしながら意味を理解できるようにする。一語一語すべてを理解することを求めるのではなく、意味のかたまりとして理解し、内容が分かった（推測できた）という経験をさせていくことが重要である。

3 少しでも聞き取れたことを評価する

すべてを聞いて理解しなくてはいけないという意識よりも、意味のかたまりで理解しようとする態度を育てていくためには、「1つでも聞き取れたらほめる」ことから始める。「まったく分からない」から「少しは分かった」という体験を積み重ねることで、児童は自信を深める。そのためには、学級が学び合おうとする学習集団であるとともに、日本語でしっかり聞く態度を1年時より育てておくことが大切である。

4 聞くものに対する準備や、聞いたものへのフォローアップをする

例えば、外国の人と一緒に、英語の指示を聞きながら調理をする活動の場合、単に調理をすることで終わってしまうと、聞きっぱなしになってしまう。こうした活動の中では、事前に調理に関係する表現に触れておいたり、活動の後で振り返ったりするなどのフォローアップが必要である。学んだことと、活動との一貫性があることで、スパイラルな指導へとつながっていく。児童が何度も聞いて慣れ親しんだ表現を使いたいと思えば、話す活動へとつなげていきやすい。そのためには、児童の実態を把握し、児童が話したいと思う表現や生活に密着した表現を多く扱うことが大切である。

言葉に慣れ親しむためには、まず「聞くこと」が重要である。「インプット」から「アウトプット」へを意識しておく。ALTの簡単な話や絵本の読み聞かせ等を導入し、「意識して聞く活動」を、1時間の授業の中に必ず入れるようにしたい。意味のある文脈の中で、外国語の音声の特徴に慣れ、聞こえてきた言葉からその意味内容を推測し、自然な音声の中から意味を聞き取ろうとする態度を育てることが重要である。

1 学級担任が英語を話すモデルになる

授業中は、まず学級担任自らが「英語の学習では、間違えてもいいから英語を使おうとすることが大切だ」という雰囲気を作る。ALT 等がいる時には、学級担任は学習者のモデルになり、積極的に英語を話そうとする姿勢を見せることも大切である。特に、コミュニケーションの際に大切にしたい「笑顔で」「目を見て」「はっきりした声で」「相手の言ったことに反応しながら」英語を話そうとする姿勢を見せる。また、ジェスチャーを駆使しながら、どうにかして伝えようとする様子を見せることも重要である。

2 自分が伝えたい内容をもたせる

外国語の学習には繰り返しの反復練習も必要であるが、指導者から与えられた表現をひたすら復唱するなどの機械的な繰り返し練習では、児童の学習意欲を減退させてしまう。そこで、児童にとって「身近で簡単なこと」について、「自分が伝えたい内容」をもたせ、それを伝えるために必要な表現を練習するようにする。相手意識や目的意識を明確にした、意味のある活動を設定すれば、児童は「英語を話して伝えたい」と意欲を高めるようになる。

3 やり取り・発表の活動例

- おすすめの国の紹介をペアで行う。紹介する児童は、おすすめの商品の国ポスターを見せながら説明をする際に、“You can eat pizza. Do you like pizza?” などと質問をしたり、聞く側の児童は、ただ説明を聞くだけでなく、ポスターの写真を見て“What’s this?”と尋ねたり、やり取りをしながらおすすめの商品の国に関する情報を得る。聞く側はより情報を得ることができ、説明する側はよりよい紹介の仕方を学ぶことにもなる。
- 「自分のお気に入りのものを紹介する活動」で、実物やイラスト、写真などを見せながら発表させる。内容を推測させる手がかりとなるため、聞く側も発表内容を理解しやすくなる。発表者には、どのような具体物を示せば自分の伝えたいことが伝わりやすいかを考えさせるよい機会ともなる。また、ジェスチャーを使いながら、表情豊かに発表すると相手に伝わりやすいことを実感させることも大切である。

4 既習表現を繰り返し使わせる

英語表現の定着のために、既習表現を繰り返し使う場面を設定する。例えば、授業の初めに帯活動として、既習表現を使って友達とやり取りする活動を設定する。「好きな果物」というテーマで、既習表現“Do you like (果物)?” “What fruit do you like?” 等の表現を選択しながら、やり取りさせる。さらに、“Why?” を使ってその理由についても答えるように続けさせると、やり取りの回数が増えていく。

「教師自身が積極的に英語を使うこと」、また、児童の実態に合わせて「話す内容を本当に自分の伝えたい内容にすること」「既習表現を繰り返し使いながら、やり取りを大切にしたい活動を設定すること」「実物や写真等を使ったり、表情豊かに伝えたりしながら発表するよさを実感させること」により、英語を積極的に話そうとする児童を育てることができる。

6

「読むこと」についての指導の在り方

1 文字を「読む」活動を導入するメリット

児童は日常生活の中で、英語の文字を目にする機会が多い。そこで、「話す活動」「聞く活動」においても、絵の下に文字を入れたカードを活用したり、やり取りの仕方を文字で示したりといった方法で、文字に自然に慣れ親しむことができるようにする。英語の音声に慣れ親しんだ段階で、文字を導入し、「読むこと」「書くこと」の初歩的な活動を導入することは、内容理解を進め、学習を促す効果がある。

2 読む活動の進め方

まずは音声を中心としながら「文字に触れること」を通して文字への認識を高める。例えば、リンゴの絵カードには、リンゴの絵の下に「apple」と書いてあるものを提示する。発音とつづりの関係を指導するのではなく、児童が「アップルって、こんなふうを書くんだ」と文字に興味をもたせる程度でよい。その際、配置する文字の大きさにも留意する。中学年には、絵の下に文字を添える程度にし、高学年では同じ絵カードでも文字を大きくするなどの工夫をする。児童はいつの間にか文字をたどりながら読むようになるであろう。同時に、児童が使う表現を文字で提示することも「読む」ことに慣れるための有効な手だてである。

3 読むことの活動例

• 身の回りの英語の文字を探す活動

電子黒板で、『Hi, friends!』の挿絵を使い、身の回りにある身近なものを表す文字を読む。また、自分の通学路で見つけた文字を紹介する活動を行う。

• 英語の文字に対する認識を高める活動

『Hi, friends! Plus』のデジタル教材を使って、隠れた文字を見せて、その文字を推測するゲームを行う。また、児童のイニシャルを使ったキャラクター作りや、そのキャラクターに名前を付ける活動を行うと、楽しみながら文字を読むことができるようになる。

• 絵本の読み聞かせ

児童が聞いたことのある絵本などを利用して、読み聞かせの活動を取り入れる。児童のなじみのある短く単純な表現が繰り返し用いられている絵本が望ましい。何度も読み聞かせを行い、音声に十分慣れ親しませた上で、絵本の文を指示しながら、“Can you find the word ‘apple’?”などと問いかけ、単語の認識へと導く。

• 言葉の仲間集め

文字の音に十分慣れ親しんだ上で、授業で使用している絵カードで「言葉の仲間集め」をする。“a”をもつ単語の絵カードなら、apple, ant, animal, dance等を示して、一緒に発音しながら/æ/の音があることを確かめ、同じ音をもつ単語の絵カードを探させたりする。このような活動により、次第に文字を追いながら発音するようになることが期待できる。



まずは「聞く活動」「話す活動」の中で文字に触れる。そして、音声から「読む活動」、「書く活動」へと、児童の実態に合わせて自然とレベルアップしていくことが必要である。

1 文字を「書く」活動を導入するメリット

児童は、十分に外国語の音声に慣れ、文字に興味をもち始めると、文字を「書きたい」という思いをもつようになる。読み慣れた文字を「書く」活動を導入することは、児童の知的欲求に合致しており、文法事項の理解を含んだ中学校外国語教育へとつながるものである。

2 書く活動の進め方

音声で慣れ親しんだ単語や身近な単語が読めるようになったら、同じ単語・語句・文を書き写したりする活動から始める。例えば、よく知っている単語の中の文字をなぞり書きすることで、単語に慣れ親しむようにする。文部科学省のホームページに掲載された『Hi, friends! Plus』のワークシートを使い、繰り返し練習することで、文字や単語への認識を高めることもできる。その際、『Hi, friends!』で扱ったイラストと関連付けて「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむようにする。ただし、文字や英単語をただ単に繰り返し書く活動を行うのではなく、文字を書きたくなる場面設定を行い、文字を書く活動に児童が意欲的に取り組めるように工夫していく必要がある。なお、文字の線の長さや高さ等について、迷わず、正しく書くことができるようにするために、4線を引いたワークシートを使用するとよい。

3 書くことの活動例

・単語を意識させる活動

『Hi, friends! Plus』のデジタル教材を使って、ネイティブ・スピーカーの音声とともに、英語の文字の認識を深める。また、同ワークシートを使って、文字をまとめて書いたり、単語の中の文字をなぞり書きしたりすることで、単語に慣れ親しむようにする。

・語順への気付きを促す活動

英文を書くことができるようになるには、文字の認識を図った上で、単語を知る、その綴りが分かる、語順が分かることなどが必要である。日本語と違う英語の語順への気付きを起こさせる指導も行うとよい。『Hi, friends! Plus』のデジタル教材には、児童は英語の語順の決まりに気付き、日本語の語順と比べて考えてみる活動が設定されており、言語に対する感覚を豊かにすることもできる。

・英語の文字を「書き写す」活動

自分の紹介したい場所について、ポスターを作る活動を設定する。場所の名前を英語でALTに書いてもらい、それを書き写す活動や、“You can ~.”と、そこでできることを文章で書く活動を設定する。児童は、日本語との語順の違いや単語と単語の間のスペースに気付くようになる。

高学年になると、文構造や語順について分析的に捉える力も育ってくるため、「書く」ことへの欲求を満たすように、系統立てて、積み上げていくことが求められる。このような「書く」活動の積み重ねは、児童の知的好奇心を刺激し、物事を論理的に思考しようとする習慣を身に付けるきっかけともなる。

外国語の授業は、音声中心で授業が展開されるため、授業の流れが分かるように、授業の活動の流れを黒板に記載しておくなどの配慮も必要である。その上で、以下のような支援が考えられる。

1 「聞く」「話す」活動における支援

外国語と日本語では、音声（音韻）やリズムが異なることが多い。その違いに気付くことができるように、①外国語の音声を文字で書いてみせる、②リズムやイントネーションを記号や色線で示す、③指導者がリズムを手拍子で打つ、④音の強弱を、手を上下に動かしながら表すなどの方法を取ることが考えられる。

2 「読む」「書く」活動における支援

文字カードやワークシートの工夫

1 単語当たりの文字数が多い、長い文などの複雑な文字情報になると、読む手がかりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい児童もいる。外国語の文字を提示する際は、①字体をそろえる、②線上に文字を書く、③語彙・表現などを記したカードなどを黒板に張るなど、児童が見やすい位置や順序等、表記の仕方や貼り方に配慮する必要がある。〈図表1〉は、一日の生活を伝え合う活動で使用されるワークシートの例である。①上部に文字付きの絵カードを載せ、そこから伝えたいことを選ぶことができるようにしてある、②4線を載せ、きちんと書くことができるようにしてある。支援が必要な児童にはさらに、なぞる文字を薄く示したシートを準備することも考えられる。

Lesson What time do you get up?
 ~夢の1日を紹介しよう!~
 NAME()

			★play ~ ★take a bath ★watch TV ∴I want to ~

	I _____ at _____ (:)
	I _____ at _____ (:)
	I _____ at _____ (:)
	I _____ at _____ (:)
	I _____ at _____ (:)

〈図表1〉ワークシート例



特別な支援を要する児童に対しては、具体的な授業場面での適切な配慮が必要である。指導者が、児童が「何につまずき、困難に感じているか」を把握し、それに対応する適切な「手だて」を講じる必要がある。その手だては、通常学級のすべての児童にとっても分かりやすい支援となる。特別支援教育のコンセプトである「インクルーシブ教育」と「ユニバーサルデザイン授業」を核とし、児童の立場に立ったきめ細かな授業設計を行うことが大変重要である。同時に、学習意欲の維持・向上のためには、学習の過程を指導者が適切に評価することも重要である。

外国語は、自身の思いや考えを伝える手段である。外国語を使って、日本の文化や地域のこと、自分の考え等を相手意識をもって語らせた。そのため、伝える内容が大切になる。他教科等の学習内容や活動を外国語の授業に取り入れる良さは以下の点である。

- 小学校の教科内容は児童の日常生活にかかわるものが多く、英語表現と関連させることが比較的容易である
- 指導者は教科内容を把握しているので、英語表現を取り込みやすい
- 教科に関連する内容であるため、児童は容易に次の授業でも思い出すことができる
- 児童の英語に対する興味を維持できる
- 上の学年に進んでも、各教科とも前学年の授業がベースになっているため、学習内容の継続性・関連性が高く、習得に効果的である

1 国語教育と関連した言葉の面白さや豊かさに気付かせる指導

国語教育との関連については、日本語とは異なる言語に触れることにより、言語の面白さや豊かさ等に気付かせたり、言語に対する関心を高め、これを尊重する態度を身に付けさせたりすることなどを通して、国語力の向上にも資するように、教育内容等を組み立てることが求められる。

例えば、新教材の6年生「Unit 8 What do you want to be?」で、職業の言い方を練習する時に、baker, farmer, teacher, bus driver と並べて練習する。そして、artist, dentist, florist と練習する。「仲間分け」を問いながら、語尾にアクセントを置いて発音することで、児童は語尾の違いに気付いていく。そして、日本語でも「医師」「看護師」「美容師」「教師」、「画家」「作家」、「介護士」「消防士」等、語尾の仲間があることが分かったときに、「ああ、英語でも日本語でも似たようなところがあるんだな」と、言葉の面白さや豊かさを感じることができる。語順については、Yes/No の結論を先に言う英語に対し、最後まで聞かないと結論が分からない日本語等、両者を比べながら言葉の面白さに気付くこともできるであろう。また、絵本を導入する際には、内容を推測させながら、音韻を踏みリズムよく読み聞かせることで、児童は言葉の豊かさを感じるだろう。

2 他教科等と関連付けた指導

外国語教育は、その他様々な教科等の内容と関連付けた授業が考えられる。例えば、「バランスのよいランチメニューを作ろう!」という単元では、家庭科の「赤・緑・黄」の食品群(肉・魚類、野菜・果物類、ご飯・パン等に分類した3つの食品群)の学習と関連させることができる。赤いリンゴを見せ、「What color is this?」と児童に尋ねる。当然児童は“Red.”と答える。そこで“Red? Sorry, it's not red. It's green!”と言う。驚いた顔の児童に、次はパンの絵を見せて“This is yellow.”と言い、しばらく考えさせると、「赤・緑・黄の食品群を聞かれているのだ!」と気づき、“Let me try!”と元気に手を挙げる児童が増える。このように、学級担任が家庭科の学習と関連付けることで、知的好奇心を満たす学習になる。

ほかにも、「ALTの先生の国のサラダを作ろう!」という、レシピを聞いてサラダを作るために、

How many ~? と How much ~? の使い分けを学ぶことができるような授業も考えられる。家庭科や算数科との関連付けである。児童は、実際に調理をするために必要な情報なので、メモを取りながら一生懸命 ALT とコミュニケーションを図ろうとする。そして、英語で書いた招待状を送り（書く活動）、作ったサラダを食べてコメントをもらうなどすることで、より達成感を感じることができる学習になる。



ALTにサラダレシピを尋ねる授業の様子(5年生)

以下は、考えられる具体的な指導内容と連携した教科・領域の例である。

指導内容例	関連教科・領域
特徴を聞き取り、まいごの〇〇さんを探そう！	国語等
外来語と日本語を比べよう！	
〇〇(地域の行事)をALTの先生に伝えよう！	総合的な学習の時間等
私のまち〇〇のよさをALTの先生に伝えよう！	
1/2成人式で将来の夢を紹介しよう！	
なりたい職業を考えて、夢の時間割を作ろう！	
行ってみたい国を紹介しよう！	社会等
歴史上の人物を紹介しよう！	
バランスのよいランチメニューを作ろう！	家庭等
〇〇(家族)のためのディナーを作ろう！	
こんな車があったらいいな！	家庭・図画工作等
住みたいな！こんな家	
オリジナル絵本を作って読み聞かせをしよう！	図画工作等
レッツ、ダンス！音楽に合わせて体を動かそう！	体育等
好きなものランキングを紹介しよう！	算数等
インタビュー(アンケート)結果をグラフにしよう！	
自分だけのレインボー〇〇(虫)を作ろう！	理科等
リズムに合わせて英語で歌おう！	音楽等

国語科、家庭科、図画工作科などの他教科等で得た知識や体験などを生かした活動を展開することで、児童の知的好奇心を更に刺激することにもなる。広く言語教育として、国語教育をはじめとした学校におけるすべての教育活動と積極的に結び付け、児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動に取り組むことが大切である。

1 歌・チャンツの効果

歌やチャンツは、児童が音程やリズムに合わせて活動することができ、楽しみながら自然に英語の音声や表現に慣れ親しむことができるため、小学校の授業では多く取り入れられている。ここでは、その効果についてまとめる。

(1) 児童の興味・関心を高めることができる

- 児童は、言語の「学習」であるということを意識せず、楽しく活動に参加できる
- 歌を聞いたり歌ったり、リズムに合わせて発音する中で、児童を自然に英語の世界に導くことができる
- リズムに乗って声を出すため、声を出すことへの恥ずかしさを軽減する
- 全員で音楽に合わせて活動するため、学級全体に一体感が生み出せる

(2) 外国語の音声やリズムに慣れ親しむことができる

- 外国語独特のリズムやイントネーションを繰り返し聞くことで、自然に身に付けることができる
- 歌を歌う、動作を交えるなど、体全体で英語の音声やリズムに触れるため、記憶に残りやすい
- 簡単な歌は、繰り返しが多く、英語らしい発音を身に付けやすい
- チャンツは、単純な繰り返しの中で、単語を置き換えるなどして、表現を増やすことができる

2 歌・チャンツの活用上の留意点

先生方に歌やチャンツを取り入れる理由を問うと、「児童が楽しそうに飽きずに活動しているから」「文科省補助教材のデジタル教材にあり、ボタン操作1つで手軽に使えるから」「自分の指導力や英語力を気にせず、安心して指導に使えるから」などの意見が多く聞かれるが、小学校英語教育の早期化・教科化等、その在り方が変わっていく中で、今後は、歌やチャンツの効果を意識し、使用目的を明確にするなど、以下のような活用上の留意点を念頭に置き、授業に取り入れることが求められる。

- 選択した歌やチャンツは、単元目標や本時の目標にとって適切か
- 授業や単元の流れの中で、活用するタイミングは適切か
- どのくらいの時間をかけるのか、また、繰り返す回数は適切か

これらのポイントを意識するだけでも、授業での扱い方に変化が出てくるはずである。また、こうした意識で常に教材研究に取り組むことにより、時には、「今日の授業では敢えて使わないでおこう」「このチャンツはリズムが自然でないから、ほかの素材で指導しよう」といった、歌やチャンツを使わない選択、または「指導は一通り計画通りに進んだが、児童の発音のリズムをもう少し改善したいから、おさらいに活用しよう」などといった新たな使い方が生み出され授業改善につながるのではないかと考える。



教科としての授業では、今まで以上に学習内容の定着が求められ、歌やチャンツで慣れ親しんだ自然な英語の表現が、実際のコミュニケーションの場で生かされることが望まれる。多くの児童が楽しく活動に参加できる歌やチャンツのもつ魅力と、その効果をしっかり理解して、授業に適切に取り入れていくことが重要である。

中学年の児童の多くは、外国語活動で初めて英語に触れることも多く、この段階では、理解可能な大量のインプットを与えることが重要である。同時に、この時期の児童にとって、絵本は身近な教材であり、「英語を聞いて分かった」という体験ができる良質な教材であるといえる。ここでは、絵本を活用することの効果と、その効果を考慮した『In the Autumn Forest』（文部科学省・平成29年3月配布）の活用方法について紹介する。

1 絵本を活用することの効果

- 読み聞かせ活動では、児童が指導者の英語を聞き、絵の助けを借りて「英語を聞いて意味が分かる」体験をすることができる
- 良質なまとまりのある英語をインプットできる
- 絵本には同じ表現が繰り返し出てくるため、自然に語彙や表現を身に付けやすい

2 読み聞かせの留意点

- ジェスチャーを多用したり、絵本に載っている文言をそのまま読むのではなく、絵本の英語を児童に理解しやすく別の言葉で言い換えたりして、児童の理解を助ける
- 一方的に聞かせるのではなく、児童に絵本の絵やあらすじについて時折質問したり、「児童とやり取り（インタラクション）」「間を取る」などしながら、児童のつぶやきや繰り返しを引き出したり、児童を絵本の世界に引き込むようにする
- 一通り読み聞かせた後、注目させたい点を示し、もう一度読み聞かせをする

3 絵本を選ぶ際の留意点

- 指導する単元のねらいや題材、言語材料にふさわしいものを選ぶこと
- 児童の発達の段階に応じた多様な使い方ができるものが望ましい
(例) ストーリーが簡潔で分かり易く、同じ表現が繰り返し使われているもの
児童が日本語で読んだことのあるもの など
- 英語の絵本の中には、英語圏の児童に向けてかかれたもの、日本の児童に向けてかかれたものなどがあり、それぞれに特徴があることを理解すること
- 学級全体に見えるように、大型絵本を使うなど、教室の大きさ、児童の人数等に合わせて、絵本の提示の仕方を考えること

4 絵本の効果的な活用方法 ～『In the Autumn Forest』を例に～

この絵本は、秋の森の中で動物たちがかくれんぼをして遊んでいる場面を扱い、ストーリーを楽しみながら、「動物の名前」「体の部位」「色や形」「修飾語」「干支」「昔話」等、種々多様な言葉や要素を自然に学習させるのに好適な教材である。どの部分に焦点を当てるかで読み聞かせの仕方が変わってくる。一度活用して終わりではなく、目的に応じて、または学級の実態に合わせて、活用を工夫し繰り返し扱うことが大切である。ここでは、新教材の3年生「Unit 8 What's this?」と「Unit 9 Who

are you?」の2つの単元を通した活用の仕方の一例を紹介する。

(1) 第1時の授業の導入場面 (Unit 8 What's this? これなあに?)

この単元では、動物の名前 (monkey, tiger 等) を表す語彙を扱うため、同じ言語材料を扱っている補助教材『In the Autumn Forest』を活用することができる。児童にとって初めて触れる語彙や表現であっても、絵の助けを借りながら、やり取りの中で意味を推測するなど、授業の導入場面での読み聞かせは効果的である。また、児童は絵本の中で既に動物や身体の部位を表す語彙に触れているため、単元の終末に行う「クイズ大会」でヒントを出し合う活動へのスムーズな導入につながる。

(2) 前時の復習の場面 (Unit 9 Who are you? きみはだれ?)

Unit 9 では、“Are you a dog?” “Yes, I am. I'm a dog.”等の表現や long, short 等、動物の特徴を表す形容詞を扱う。一般的に前時の授業の復習を行う場合、ゲームや歌、チャンツ等が考えられるが、絵本の読み聞かせを再度行うことも、既習の語彙や表現の慣れ親しみに効果的である。前時の授業の読み聞かせで、絵本をすべて読まず余韻をもたせておけば、児童は話の続きが知りたいという強い意欲をもって話を聞いたり、口に出したりするため、自然に語彙や表現に慣れ親しんでいく。

(3) 発展教材としての例：Unit 8 と Unit 9 のまとめの活動として

Unit 8 と Unit 9 での学習を生かし、そのまとめの活動として、絵本に出てきたセリフを使ってクイズを出し合う。ここでは、絵本に出てくる“I see something ~.” “Are you a ~?” “Yes, I am. I'm a ~.”等の表現を言わせる活動としてではなく、絵本の筋に合わせて児童が「紹介したい」という気持ちを優先させて取り組ませることが大切である。例えば、児童が個人用に配付されている絵本を使って、“I see something black and white. It's very big.” “Are you a cow?”とその背景にある絵を利用してヒントを考えたり、または、絵本のイラストを指して“I like grapes. Do you like grapes?”と既習の表現を使ったりなどしながらクイズを出し合う。このように、絵本を、読み聞かせで完結させるのではなく、絵本で扱う様々な語彙や表現を、コミュニケーション活動の中で活用することも大切である。

- 
- 絵本は、児童に良質なインプットを与えるために効果的な教材であり、授業で積極的に扱うとよい。
 - 児童を絵本の世界に入り込ませ、自然に英語に触れるようにするために、読み聞かせの技術を高める必要がある。
 - 絵本の選定に当たっては、題材や扱う言語材料等との関連を考えるとともに、教室環境に合わせて、本の大きさや提示の仕方等を考えることが大切である。

現在、小学校では、学級担任や専科教員による単独での授業、ALT や外部人材とのチーム・ティーチング等、学校の実態に合わせた指導形態が取り入れられている。チーム・ティーチングの形態については、学級担任とネイティブ・スピーカー等の ALT や英語が堪能な地域人材、英語専科教員等、様々なパターンが考えられるが、ALT の活用時数の割合が年々増加傾向にあることを踏まえ、本節では、「学級担任と ALT とのチーム・ティーチング」について述べることにする。

1 チーム・ティーチングの意義

チーム・ティーチングとは、文字通り、複数の指導者がチームを組んで児童の指導に当たるということである。したがって、チーム・ティーチングの意義は、「複数の指導者がいるからこそ可能なことは何か」、「指導者それぞれの適性や個性を生かした授業とはどのようなものか」を考えることと同義である。

まず、複数の指導者がいることの利点については、「教室内の児童を一人の目ではなく二人の目で見守り、指導する」ことが挙げられるだろう。学級担任や専科教員（以下、「学級担任等」とする）が、単独では気付かない面に ALT が目を向けて補助をしたり、全体指導の傍らで個別に支援を必要とする児童に対して声かけをしたりするなど、物理的に複数名の指導者がいるというメリットを生かした役割分担ができるという。

また、ダイアログ形式の活動モデルを示す時に、学級担任等の単独授業では、学級担任等が一人二役をするか、児童一人を前に出して示すことが多くなるが、ALT がいることにより、スムーズに対話モデルを見せることが可能となる。児童にとっては、分かりやすいモデルを見ることができると、その後のコミュニケーション活動で何をすればよいか、どう言えばよいかを簡単に理解し、スムーズに活動に入ることができる。この点もチーム・ティーチングの果たす大きな意義であると言える。

続いて、指導者それぞれの適性や個性を生かすことを考えるに当たり、次のように学級担任等と ALT のもつ特性をまとめた。

学級担任等の特性	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人をよく理解しているため、学習指導と生活指導の両面に配慮し、学級の児童の発達段階に応じた内容を設定できる 児童と信頼関係が構築されており、児童が外国語活動や外国語科の授業を担当に担当することに安心感を覚え、リラックスして授業に臨むことができる 全教科等を担当しているため、他教科等での学びを外国語学習に取り入れることができる 英語学習者の一人として、児童とともに英語を使い学ぶ存在である
ALTの特性	<ul style="list-style-type: none"> ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせたり、母国の生活や文化等の情報を伝えたりすることができる 児童にとって、学んだ英語を実際に使えるコミュニケーションの相手である

ALT は、児童にとって、その存在自体が異文化を体現するものであるとともに、学習した英語を使って伝えることができる相手である。ALT が話す外国の文化や生活についての情報、言葉、ジェスチャー

の一つ一つが、児童にとって新鮮であり、学習への興味・関心を喚起させるという点でその存在意義は大きい。様々な視聴覚教材や ICT が簡単に使えるようになり、ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせたり、動画や映像を観せたりすることはできるが、やはり本物に勝るものはない。また、授業で児童が学んだことを実際に試す場を保障し、「自分の英語が伝わった」「外国人の話していることが分かった」という達成感につなげるために、ALT の存在は大きい。児童自身がコミュニケーションの体験の中で実感することは、学習意欲を高める上でも重要である。

また、児童の英語力を考えると、やり取りの中で英語で言いたいことを表現できないことが多い。その際には、ALT が簡単な英語で言い直したり、どう言えばよいのかを教えたりすることで、児童が新たな表現を身に付けることもできるだろう。実生活における対話は、教材にある通りに進むことは少なく、授業において、児童が「言いたいことを言う」「伝わらない時にはこうしたらよい」という経験を積むことは、生きたコミュニケーション体験そのものであり、チーム・ティーチングの醍醐味の 1 つであろう。

2 ティーム・ティーチングの進め方と学級担任等と ALT の役割分担について

前述の特性を踏まえ、チーム・ティーチングに当たっては、次のように役割分担をし、授業を計画し進めるとよい。

(1) 授業準備・授業前

学級担任等に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実状、興味・関心と単元の題材に合ったコミュニケーション活動の設定をする 役割分担を示し、メインの活動と学習の流れについて打ち合わせをする
ALT に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> 担任の考えたコミュニケーション活動に必要な単語や表現を準備する 単元に関連して提示できる自国の文化等を紹介する素材を準備する

小学校における英語教育の中心は、「簡単な英語でのコミュニケーション体験」である。学級担任等は、普段から学級の児童と生活し、その様子をいちばんよく知る存在であることを生かし、単元や題材の目標と照らし合わせながら、どのようなコミュニケーションの場を設定し、どう活動させるかのプランを設計する必要がある。その際に、児童がより意欲的に活動に取り組めるよう、各活動における ALT の役割を明確にしておく必要がある。児童のことをよく理解している学級担任等と、英語のエキスパートであり自国の文化を体現する ALT の適性を生かした授業準備をしたい。

(2) 授業中

学級担任等に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> 児童の理解の様子をよく観察しながら授業を進める ALT とともに活動の仕方を示す 児童の日本語によるつぶやきや気付きを拾い、ALT に易しい英語で言わせる ALT の発言を繰り返させて児童に聞かせたり、スピードを変えさせたりし、児童に英語を聞かせる 評価について分担して行い、振り返りの活動では、児童の活動の様子について情意面で気付いたことをほめる
---------------	--

ALT に 求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> • 学級担任等とともに、活動の仕方を示す • 単元に合った自国の文化や生活等について紹介し、児童とインタラクションしながら、お互いの国の様子や ALT 自身について知ってもらう • 児童のつぶやきや気付きを、児童から直接、または、学級担任等を介して受け取り、易しい英語やジェスチャーを使って分かり易く示す • ネイティブ・スピーカーの正しい発音を繰り返し聞かせる • 学習した英語を使って児童と会話する • 評価について分担して行い、振り返りの活動では、児童の活動の様子について技能面を中心にほめる
------------------	--

ALT の役割は、主に、正しい英語を話す存在、児童の英語を使ったコミュニケーションの相手であるという存在、異国の文化や生活について教えてくれる存在であるという特性を生かして授業の補助を行うことであり、基本的な授業の進行は児童の実態をよく知る学級担任が行うとよい。学級担任等と ALT の役割をお互いが理解して授業を進めていくことが、チーム・ティーチングの成功の鍵となるわけだが、学級担任等には、加えて、「児童の様子を見ながら、ALT と児童をつなぐ」役割が求められる。せっかく、ALT が英語のインプットを大量に与えても、児童にとってそのインプットが「理解可能な」ものであるかどうかは、ALT には分からないことが多い。学級担任等は、ALT の与えるインプットに対する児童の反応をよく見て、ALT の発言を制止したり、繰り返させたり、ゆっくり言わせたりするなど「児童の気持ちを代表して ALT に伝える」コーディネーター的な役割を意識して授業を進めていくことが重要である。これが、児童と ALT をつなぐということである。

(3) 授業後

学級担任等に 求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> • とともに、指導についての評価を行い、改善方法について話し合う
ALT に 求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の学習状況について、気付いたことや発見したことを共有する

プランを十分に練り、準備した授業であっても、毎回予定通りにうまく進むわけではない。授業後には、教室から職員室までの移動など短い時間でもよいので、授業者が振り返りを行うことが望ましい。

3 具体的な指導の一例

ここでは、新教材の5年生「Unit 6 I want to go to Italy.」を例に、チーム・ティーチングの進め方の一例を紹介する。この単元では、世界のいろいろな国について、その国の英語での言い方、名所や食べ物、特色等を知り、最終的には、自分の行きたい国について、紹介し合ったり、表現を書き写したりすることが目的である。

児童は、5年生の社会科の学習で、世界の国々について学習し、いくつかの国について学んでいる。他教科等で学んだ知識を外国語活動や外国語科の授業に生かすことは、非常に有効であり、本単元の学習においては、ぜひとも連動させたいところである。ただし、世界の国々について知っていても、それがすなわち児童の「その国に行きたい」気持ちに直結するわけではないため、学級担任等と ALT がそれぞれの適性を生かしたチーム・ティーチングを実施することにより、児童が単元の学習を通して「いろんな国があるな→どんな国なのかな→○○をしてみたいな→この国に行ってみよう→みんな

なに知ってもらおう」となるように仕向けていかなければならない。このことを考慮し、次のように授業の組み立てと役割分担の一例を紹介する。

第1時 行ってみたい国や世界遺産等の名所の言い方、その紹介の仕方を学ぶ

学級担任は、社会科の授業も担当しており、そこで扱った国と扱わなかった国を知っており、児童の興味・関心をよく理解している存在である。そこで、学級担任は、ALT とともに紹介する国を選び、ALT に事前に伝えておく。社会科や総合的な学習の時間で、世界の国々について紹介した作成物がある場合には、それを渡しておくことも効果的であろう。一方、ALT は、「イタリア」「エジプト」「ドイツ」「中国」など、英語での発音が日本語と大きく異なる国を知っている存在であり、具体的にその国を英語で紹介するための表現を知る存在でもある。そこで、ALT は学級担任に伝えられた国を含め、紹介するとよい国についてのいろいろな情報を集めて授業に臨む。

授業では、学級担任等と ALT とのやり取りを通じて、児童に国の名前の言い方や紹介の仕方に気付かせる。学級担任等は、児童の代弁者として、ALT が“Italy”と言ったら、「え？ イタリアー？ イタリアじゃないの？」と ALT に尋ね、さらに繰り返させるなど、ALT と協力して発音の違いに気付かせたり、実際に児童と一緒にその発音を ALT の後に続けて言ったりする。また、ALT 本人のふるさどについては、児童にとっても興味・関心が高く、ALT にとっても紹介する意義のある場所であるため、学級担任等とのやり取りで ALT の出身地を確認し、担任がその場所について知りたいと伝えることから始めるとよいだろう。

第2時～第5時 いろいろな国々の情報をインプットしながら、自分の行きたい国を紹介する際に必要な語彙や表現を身に付ける

食べ物や名所、その国の特色といったテーマごとに、いろいろな国を紹介し、児童に英語を聞かせながら、新たな国について学んだり、紹介する際の表現を学んだりする時間である。また、学習を通じて、児童一人一人が「〇〇に行きたい、自分も紹介してみたい」という動機を高めるための時間でもある。

4時間をかけて、いろいろな国の特徴を知り、表現を使えるようにしていくため、授業の展開がワンパターンになってしまいがちである。そこで、ALT をツアーコンダクターに見立てて、いちばん行きたい国はどこか、どのように紹介すると聞く側が行きたいと思うかを考えさせながら進めるとよい。また、第4時、第5時など、授業を進めるにつれて、児童を巻き込み、児童に発言させる時間を増やすように仕向けることも大切である。学級担任等が ALT の発言を止め、「ALT の先生は、何て言うかな？」などと、児童に問いかけ、発言を促していけば、それ自体が表現を定着させるための練習となる。このように、一方的に ALT がすべてを説明するのではなく、時に ALT が聞き役にまわるなど、自然に児童がアウトプットする側に移行していくように、学級担任等と ALT が協力して授業を進めるとよいだろう。

第6時～第8時 自分の行きたい国について口頭で紹介し合ったり、例文をもとに書き写したりする

第1時から第5時までの学習で、いろいろな国の情報を得た児童が、自分の行きたい国を紹介する時間である。紹介する相手は、学級の仲間、学級担任等、ALT が考えられるが、英語を使って紹介するため、その必然性が高くなるのは ALT であるということも言うまでもない。ただし、せっかく時間をかけて準備した発表なので、ALT 一人だけに発表するのではなく、できるだけ多くの人に聞いてもらい、繰り返し練習する中で上達する流れを仕組むことが大切である。

そこで、まず、友達に発表する時間を設定する。ここでは、友達の発表を聞いて気付いたことを自由に伝えさせ、それぞれの発表をより良いものにしていく機会とする。例えば、その中に共通して意識させるべき観点「声の大きさやアイコンタクトなどの様子」についての気づきがあれば、それを学級担任等が拾い上げ、伝えてもよいだろう。続いて、学級担任等に発表する。学級担任等は、これまで学習してきた国の名前や紹介する際の表現に注目してフィードバックを与えるとともに、児童の発表内容でよかったことに注目して評価し、コメントする。最後に、児童はALTに対して自分の行きたい国の紹介をする。ALTは児童の発表を共感的に聞き、その内容をほめるコメントを与えるとともに、修正すべき点があれば児童と一緒に練習するなど、ALTと児童が対面で会話する時間を設定したい。

なお、学級の人数等の問題により、学級担任等やALTが全員の発表を聞く時間が確保できない場合は、ペアの相手を変えて繰り返し発表し合う活動とし、学級担任等とALTがそれぞれ、そのペアの中に入り評価するなど工夫するとよい。

4 ALTとの打ち合わせについて

チーム・ティーチングを行う際の課題として、打ち合わせの時間の確保が挙げられる。教員には空き時間が少なく、打ち合わせの時間を十分に確保するのが難しい。また、自分の英語力に自信がない者も多く、打ち合わせが億劫になり、ALTに任せっきりになりがちである。しかし、チーム・ティーチングの成否は、綿密な打ち合わせの有無によることが多く、限られた時間の中で効果的に行うことが望まれる。打ち合わせは、以下のことに気を付けて行う必要がある。

- 打ち合わせまでに、事前に送付された指導案等をもとに、ALTが授業の展開を確認する。英語ですべて書かなくても、会話のやり取り、ポイントのみ英語で明記すればよい。
- 実際の打ち合わせでは、特に主となる活動のねらいと役割分担について話し合う。ALTが母国の有名な場所を紹介するなど、ALTが担当する部分はALTが概要を準備しておき、打ち合わせの時に確認する。

〈打ち合わせの手順〉

- ① 授業中の互いの役割とともに、各活動のねらいについて確認
- ② 「何を」「どの場面で」「誰と」「どのようにするのか」について確認
- ③ モデル会話のデモンストレーションなど、実際の教室内のやり取りを想定して練習

どの部分を任せるのか、どこを協働で行うのかをはっきりさせて授業を行うことで、それぞれの特性や良さを生かした授業が行えるはずである。小学校の教員は、ALTとの打ち合わせを自分の英語力を向上させる良い機会と捉えて限られた時間の中で伝えられるように工夫するとよい。

なお、打ち合わせの効率化を図る方法として、校区の中学校英語教員や退職教員等の支援を受けて、学級担任等が作成した日本語の指導案の英語版を作成し、ALTに事前にメールしておくことも一案である。市町の共有フォルダがある場合には、蓄積してほかの教員も参考にできるようにしておけば、小学校教員の多忙化解消にもつながるであろう。

ティーム・ティーチングの役割と効果

学級担任等の役割

○授業のコーディネーター

- ・「児童の言いたいことを引き出す」「英語で言えないことを代弁する」など、児童の学習をサポートする。
- ・児童の反応を見て、ALTの発言を止め、繰り返させたり、ゆっくり言わせたりするなど、ALTと児童をつなぐ。

○授業をデザインする

- ・児童の発達段階に応じた内容、他教科等と関連させるなど、児童の興味・関心を生かした活動を考える。

ALTの役割

○コミュニケーションの相手

- ・実際に英語を使う体験
- ・外国の人に直接触れる体験

○ネイティブ・スピーカーとしての英語力

- ・生きた英語によるインプット
- ・発音のモデル

効果

- ・児童がコミュニケーションを体験することができる。
(例) モデル会話 児童とのインタラクション
- ・英語の使用量が増える。
- ・評価の分担ができる。



学習への意欲、 英語への興味・関心

- ・楽しそうに話をしているなあ。
- ・自分も先生みたいに話せるようになりたいなあ。
- ・外国人と話すというのはこういうことなのか。



効果的なティーム・ティーチングとは、

○学級担任や専科教員

児童にとってコミュニケーションの必然性のある場面を設定し、授業では児童の気付きを引き出したり、ジェスチャーや簡単な英語で児童の思いや考えを代弁したり、ALTとのやり取りの時間を確保しながら授業をコーディネートする

○ALT

学級担任等と英語でデモンストレーションしたり、児童と直接会話したりする機会を提供し、児童に「英語が使えた」という経験をさせる

ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせ、自然な表現をインプットする

それぞれが役割を果たすことで、児童が実際に「英語を使ってコミュニケーションできる」授業になる。

外国語教育の分野だけでなく、全教科等で視聴覚教材・ICTの活用が進んでいる。既に、多くの学校においては、デジタル教科書をはじめ、ネイティブ・スピーカーの音声で作成されたCD、国や地域の行事等を紹介したDVDなど、目的に応じて様々な視聴覚教材・ICTが積極的に活用されている。

ここでは、授業における視聴覚教材・ICTの活用の効果について改めて整理し、その効果を考慮した活用例を紹介する。

1 視聴覚教材・ICT活用の効果

以下のような効果から、視聴覚教材・ICTが導入されている。

- ・実物や写真等を大きく、見やすく提示することで、児童の集中力を高める
- ・世界各地の映像や動画等の素材を活用することで、児童の興味・関心を高めることができる
- ・インターネットを介し、学校外の人物と会話したり情報を収集したりすることができる
- ・動画を要所で一時停止し、静止画像として活用したり、解説を加えたりできる
- ・ネイティブ・スピーカーの発音に触れ、日本語と英語の音声の違いに気付かせることができる
- ・プレゼンテーション用ソフトを使用し、文字や文構造等の指導のポイントを明確に示すことができる
- ・個々の学習の履歴として記録し、学習のまとめや振り返り時において、繰り返し再生したり見直したりすることができる

2 効果を考慮した活用例

(1) 学習への興味・関心を高める効果として活用

教室内での学習では、児童にリアリティを感じさせたり、なりきって活動させたりすることが難しい場合がある。ネット上にある動画や映像を活用して疑似体験させたり、その場にいるかのような雰囲気を作り出したりすることで、児童はその世界に入り込んだり、なりきって取り組んだりことができ、学習への興味・関心が高まり、意欲につながっていく。

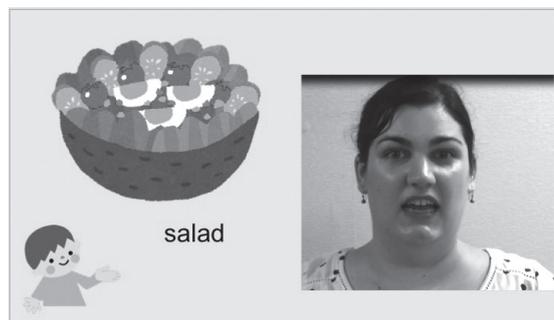
例えば、新教材5年生のUnit 4では、1日の生活について尋ね合う活動を行うが、前年度の実践では児童の関心が今ひとつ薄かったため、ALTにテレビ電話で問題提起をしてもらう形に改善した。ALTは、児童に「先週水曜日夜、9時を過ぎてもハンバーガーショップにいる小学生を見た。小学生は9時まで寝ることが望ましいと聞いていたので、大変驚いた。みなさんはどう思うか。また、みなさんの就寝時刻も教えてほしい」と英語で問いかけた。児童は、ALTからの質問に答えるため、真剣に考える様子が伺えた。友達と就寝時刻を聞き合った後、再度テレビ電話をつなぎ、ALTにインタビューの結果を報告した。児童は、ALTに「ほぼ全員が規則正しい生活を送っている」と褒められ、喜んでいった。



(2) 日本語と英語の音声や文構造の違いに気付かせる指導に活用

小学校におけるALTを活用した授業は、全体の約6割程度で行われているが、地域によってその格差は大きい。英語を学ぶ初期段階であることを考えると、まずは、音声に慣れ親しませることが大切であり、ALTと一緒に授業をしない場合でも、ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせることは有効である。

例えば、「サラダ」と「salad」の発音の違いに気付かせる授業では、〈図表1〉のように、写真と文字に加え、ALTの口の動きを収録したものを活用できる。また、教科型の授業においては、音声だけでなく、文字や文構造の仕組みに気付かせる指導が新たに加わるため、視聴覚教材・ICTを活用して音声と合わせて文字や文を表示しながら、視覚的に日本語と英語の違いに気付かせる指導にも有効である。



〈図表1〉ネイティブ発音の提示

(3) 評価への活用 (児童の発表や活動の様子を録画)

児童の発表の様子を録画しておけば、教師が丁寧に評価することができるだけでなく、児童本人がその様子を振り返り、他者から言われるのではなく、自分自身で課題に気付く良い機会となるだろう。また、授業のウォーミングアップとして毎時間行われる「Small Talk」の活動の様子を定期的に録画し、学年の始めと終わりに見比べることができれば、自分の成長を確認することができ、自己評価としても活用できる。

3 視聴覚教材・ICT 活用上の留意点

(1) 活動のねらいを明確にする

視聴覚教材・ICTは、教師にとっても児童にとっても魅力にあふれた教具である。しかし、外国語教育の授業において最も重視すべき課題は、「いかにコミュニケーションの機会を保障し、英語を使うことができるか」である。視聴覚教材やICTの活用は、「生きたコミュニケーションを経験するのに必要な手立て」の1つにすぎないということを念頭に置いて、視聴覚教材やICTの活用のねらいを明確にすることが重要である。

(2) 不具合の際の代替措置を準備しておく

視聴覚教材やICT機器には、不慮の不具合がつきものである。たとえ、授業で不具合が発生しても、その対応で時間を浪費しないように、代わりに使える教具や別のプランを準備する等の対応が必要である。



外国語教育における視聴覚教材・ICTの活用にあたっては、児童の実態を踏まえた上で、教師がその効果を意識し、目的に応じた活用ができるかどうかを鍵となる。視聴覚教材やICTの活用が主目的ではなく、それらが、「児童が外国語に触れ、実際に外国語を使う機会を増やすための1つの手法」として活用できているかということが大切である。そして、その効果的な活用法については、同僚はもとより、近隣の各小学校においても情報を共有し、改良を加えていくことで、活用に広がりが見られる。

